

- 二、左足を一步前に踏出す。
- 三、右脛を左脚の前に屈げ尖を地につく。
- 四、右足を一步前に踏出す。



圖六廿第

一一九、脛屈踏替觸趾歩 (其一) (第二十七圖) 一回八呼

- 一、左脛を右脚の前に屈げ足尖を地につく。
- 二、左足を一步前に踏出す。
- 三、右足を左足に引きつく。
- 四、左足を一步前に踏出す。
- 五、右脛を左脚の前に屈げ足尖を地につく。
- 六、右足を一步前に踏出す。
- 七、左足を右足に引きつく。

八、右足を一步前に踏出す。



圖七廿第

一二〇、脛屈踏替觸趾歩 (其二) (第二十七圖) 一回八呼

- 一、左脛を右脚の前に屈げ足尖を地につく。
- 二、左足を一步前に踏出み出すと同時に右足を引きつく。
- 三、左足を一步前に踏出す。
- 四、右脛を左脚の前に屈げ足尖を地につく。
- 五、右足を一步前に踏出すと同時に左足を引きつく。
- 六、右足を一步前に踏出す。

一二一、二重觸趾歩 (其一) (第二十八圖) 一回六呼

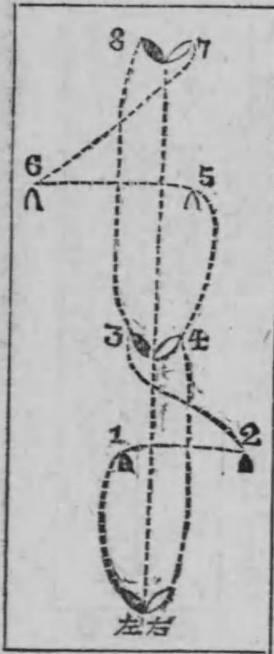
- 一、左足を半歩前に踏出し足尖を地につく。
- 二、左足を右足の斜前方に出し足尖を地につく。

- 三、右足を一步前に踏出す。
- 四、五、六は右足にて左足の如く行ふ。



圖八廿第

- 一三三、二重觸趾歩 (其二) (第二十九圖) 一回八呼
- 一、左足を半歩前に出し足尖を地につく。



圖九廿第

- 二、左足を右足の斜前方に出し、足尖をを地につく。
- 三、左足を一步前に踏出す。
- 四、右足を左足に引きつく。
- 五、六、七、八は右足にて行ふ。
- 一三三、二重觸趾歩 (其三) (第三十圖) 一回十呼
- 一、左足を半歩前に出し足尖を地につく。
- 二、左足を右足の斜前方に出し足尖を地につく。
- 三、左足を一步前に出す。



圖十三第

- 四、右足を左足に引きつく。
- 五、左足を一步前に踏出す。

六、七、八、九、十は右足にて行ふ。

一二四、二重觸趾歩（其四）一回八呼

- 一、左足を半歩前に出し足尖を地につく。
- 二、左足を右足の斜前方に出し足尖を地につく。
- 三、左足を一步前に踏出す。
- 四、左足を一步前に踏出す。
- 五、六、七、八は右足にて行ふ。

一二五、脛屈二重觸趾歩（其一）一回六呼

- 一、左足を半歩前に出し足尖を地につく。
- 二、左脛を右脚の前に屈げ足尖を地につく。
- 三、左足を一步前に踏出す。
- 四、五、六は右足にて行ふ。

一二六、脛屈二重觸趾歩（其二）一回八呼

- 一、右足を半歩前に出し足尖を地につく。

二、左脛を右脚の前に屈げ足尖を地につく。

三、左足を一步前に踏出す。

四、右足を左足に引きつく。

五、六、七、八は右足にて行ふ。

一二七、脛屈二重觸趾歩（其三）一回十呼

- 一、左足を半歩前に出し足尖を地につく。
- 二、左脛を右脚の前に屈げ足尖を地につく。
- 三、左足を一步前に踏出す。
- 四、右足を左足に引きつく。
- 五、左足を一步前に踏出す。
- 六、七、八、九、十は右足にて行ふ。

一二八、脛屈二重觸趾歩（其四）一回八呼

- 一、左足を半歩前に出し足尖を地につく。
- 二、左脛を右脚の前に出し足尖を地につく。

- 三、左足を一步前に踏出すと同時に右足を引きつく。
- 四、左足を一步前に踏出す。
- 五、六、七、八は右足にて行ふ。

一二九、前後觸趾歩 (其一) (第三十一圖) 一回六呼

- 一、左足を半歩前に出し足尖を地につく。
- 二、左足を後方に半歩出し足尖を地につく。
- 三、左足を一步前に踏出す。
- 四、五、六は右足にて行ふ。



圖一十三第

一三〇、前後觸趾歩 (其二) (第三十二圖) 一回八呼

- 一、左足を半歩前に出し足尖を地につく。
- 二、左足を半歩後方に出し足尖を地につく。

- 三、左足を一步前に踏出す。
- 四、右足を左足に引つく。
- 五、六、七、八は右足にて行ふ。



圖二十三第

一三一、前後觸趾歩 (其三) (第三十三圖) 一回十呼

- 一、左足を半歩前に出し足尖を地につく。
- 二、左足を半歩後方に出し足尖を地につく。
- 三、左足を一步前に踏出す。
- 四、右足を左足に引きつく。



圖三十三第

五、左足を一步前に踏出す。

六、七、八、九、十は右足にて行ふ。

一三二、前後觸趾歩 (其四) 一回八呼

一、左足を半歩前出し足尖を地につく。

二、左足を半歩後方に出し足尖を地につく。

三、左足を一步前に踏出すと同時に右足を引きつく。

四、左足を一步前に踏出す。

五、六、七、八は右足にて行ふ。

一三三、踵趾歩 (其一) 一回八呼

一、左足を一步斜前方に踏出し踵を地につく、(足尖をあぐ)

二、左足を右足に引きつけ足尖を地につく。

三、左足を一步斜前方に踏出し踵を地につく、(足尖をあぐ)

四、左足を右足に引きつく。

五、六、七は右足にて行ふ。

一三四、踵趾歩 (其二) (第三十四圖) 一回十六呼

一、左足を一步斜前方に出し踵を地につく、(足尖をあぐ)

二、左足を右足に引きつく。

三、左足を一步斜前方に出し踵を地につく。

四、左足を右足に引きつくと同時に左轉向をなす。

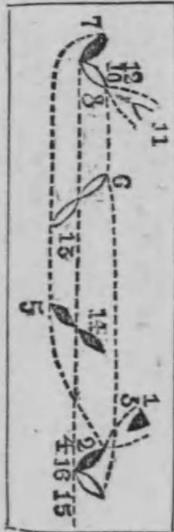
五、左足を一步左側方に出す。

六、右足を一步踏出す。

七、左足を一步前出すると同時に左轉向をなす。

八、右足を左足に引きつく。

九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六は右足にて行ふ。



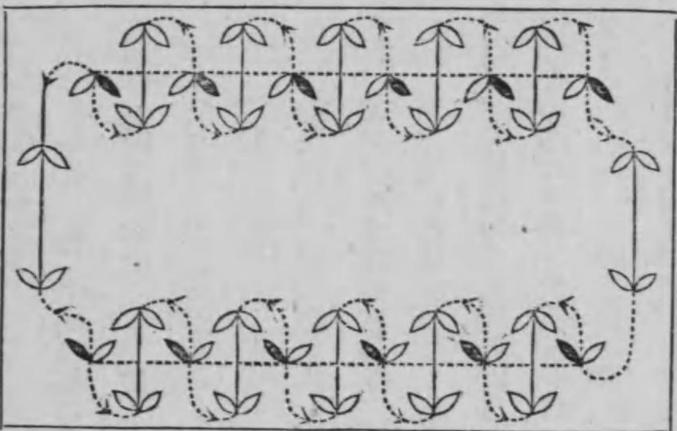
圖四十三第

一三五、前後踵趾歩 (其二) 一回六呼

- 一、左足を半歩前方に出し踵を地につく、(足尖をあぐ)
 - 二、左足を半歩後方に出し足尖を地につく。
 - 三、左足を一步前に踏出す。
 - 四、五、六は右足にて行ふ。
- 一三六、前後踵趾歩 (其二) 一回八呼
- 一、左足を半歩前方に出し踵を地につく。
 - 二、右足を後方に出し足尖を地につく。
 - 三、左足を一步前に踏出す。
 - 四、右足を左足に引きつく。
 - 五、六、七、八は右足にて行ふ。
- 一三七、前後踵趾歩 (其三) 一回十呼
- 一、左足を半歩前方に出し踵を地につく。
 - 二、左足を後方に出し足尖を地につく。
 - 三、左足を一步前に踏出す。

- 四、右足を左足に引きつく。
 - 五、左足を一步前方に踏出す。
 - 六、七、八、九、十は右足にて行ふ。
- 一三八、前後踵趾歩 (其四) 一回八呼
- 一、左足を半歩前方に踏出し踵を地につく。
 - 二、左足を後方に出し足尖を地につく。
 - 三、左足を一步前に踏出すと同時に右足を引きつく。
 - 四、左足を一步前に踏出す。
 - 五、六、七、八は右足にて行ふ。
- 一三九、對舞に於ける時の默禮 (第三十五圖) 一回十六呼
- 對舞の時に於ける默禮は一にて己の伍のものと相對しつゝ、右生は左方(組の内)左生は右方(組の外)へ右足を一步踏出し、二にて左足を引きよせ三、四にて左足を後方に引きながら右膝を屈す、五、六にて舊位置に復し、七、八にて右足を引きながら左膝を屈し、右足を左足に引きつく、次の八呼間は左生は右方へ(組の内)右生は左方へ(組の外)へ以

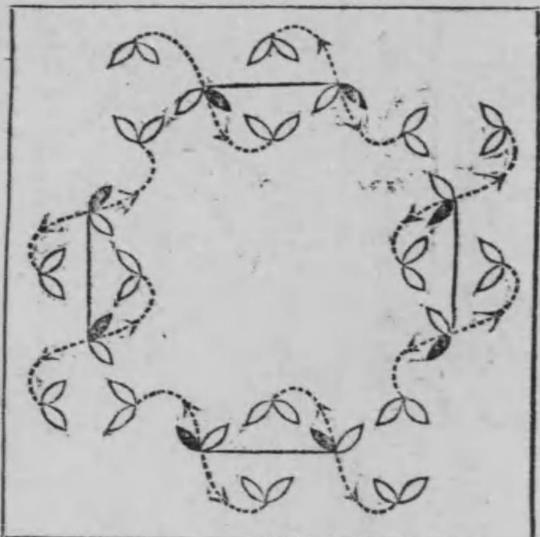
上の動作にて隣伍と行ふ。



第三十三圖

左翼と右翼との右生二人は八呼間に各自伍と黙禮の後
は黙禮すべき隣伍なき故相對するものと行ふ。
尙ほ黙禮をなすには、ふしをつけざるやう圓滑に行ふ
をよしとする。

一四〇、方舞に於ける黙禮 (第三十六圖) 一回十六呼
方舞の時に於ける黙禮は一にて己の伍のものと相對し
つゝ右生は左方(組の内) 左生は右方(組の外) へ右
足を一步踏出し、二にて左足を引きよせ、三、四にて
左足を後方に引きながら右膝を屈す、五、六は左足を
舊位置に復し、七、八にて右足を引きよせ、次の八呼
間は左生は右方へ(組の内) 右生は左方(組の外) へ
以上の動作を隣伍と行ふ。



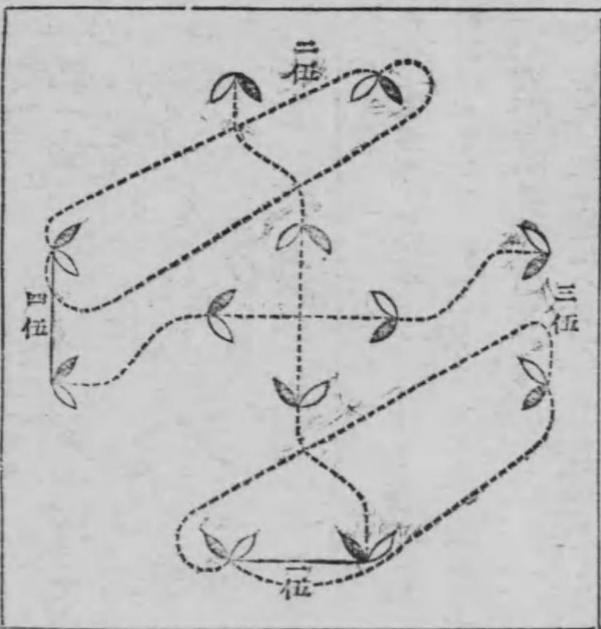
第三十六圖

一四一、ムリネ (Moulinet) (十字旋回) (第三十七圖) 一回六呼

一四二、バランス (Balance) (平均) (第三十八圖) (一回四呼)

一、左足を一步側方に踏出す。

二、右足(踵を地につけず)を左足の踵に引きつく。



圖七十三第

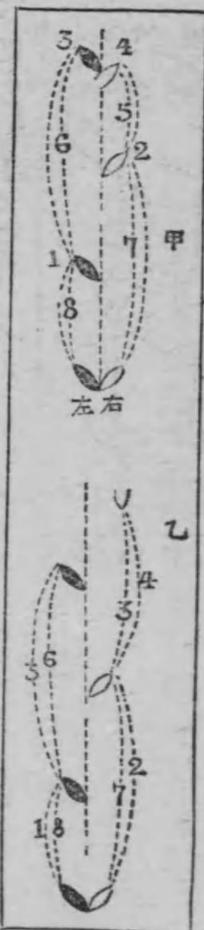
三、右足を一步右側方に踏出す。



圖八十三第

四、左足を(踵を地につけず)右足の踵に引きつく。

右足より始むる場合と左足より始むる場合とあり(バランスとセットとは殆んど同じ)



圖九十三第

一四三、フォア、エンド、バック (Fore and back) (前進退却) 一回八呼 (第三十九圖)

- 一、左足を一步踏出す。
- 二、右足を一步踏出す。
- 三、左足を一步踏出す。
- 四、右足尖を左歩の踵に引きつく (又は右足を一步踏み出し踵のみ地につける)
- 五、右足を一步後出す。
- 六、左足を一步後出す。

七、右足を一步後出す。

八、左足を右足に引きつく。

二人にて行ふときは右手、八人にて行ふときは両手を取り、四の時に其手を眼の高さに挙げ、八の時に手を解く。

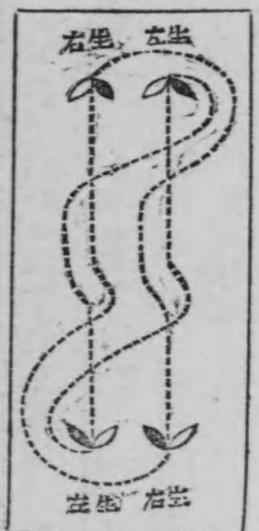
一四四、クロツス (Cross) (通過) (第四十圖) 一回八呼

一、二、兩伍各右手をとりて前進す。

三、手を少しく舉ぐると同時に手を解く。

四、兩伍の右生は隣伍の間を通過す。

五、更らに右手をとる。



圖十四第

六、七、八行進の後位置交換。

一四五、同中央通過 (第四十一圖) 一回八呼

通過をなすときは二伍は手を解き、一伍は手を取りたるまゝ、二伍の中央を通過し、位置交換をなす、舊位に復する事となすには二伍が一伍の中央を通過する。



圖一十四第

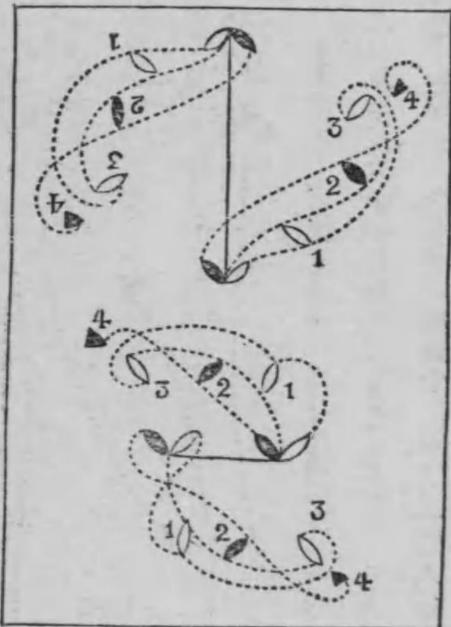
一四六、グランドサークル (Grand circle) 八人手を繋ぎて圓形を作る。

一四七、セツト (Set) (第四十二圖) 一回八呼

一、右足を右斜に踏出す。

二、左足を右斜に踏出す。

- 三、右足を右斜に踏出すと同時に左轉回をなす。
- 四、左足尖を右の少しく後方に引くと同時に右膝を屈す。



圖二十四第

- 五、左足を左斜に踏出す。
- 六、右足を左斜に踏出す。
- 七、左足を左斜に踏出すと同時に右轉回をなす。
- 八、右足を左足の少しく後方に引くと同時に左膝を屈ぐ、演舞の時は右生は半左向をなし

組の内方に左生は組の外方に行ふ。

一四八、セットパートナー (Set Partner)

伍の者とセットす、即ち右生は組の内方に左生は組の外方に行ふ。

一四九、セットコーナー (Set corner)

隣伍とセットす、即ち一伍の右生は三伍の左生と一伍の左生は四伍の右生と二伍の右生は四伍の左生と二伍の左生は三伍の右生と行ふ。

此時は右生は半右向をなし、組の外に左生は半左向をなし組の内に行ふ。

一五〇、ハーフセット (Half set)

一、二、三、四はバランスを行ひ五の時兩手を取り六にて手を離し、七、八にて左轉回をなす。

一五一、レディースチェーン (Ladies chain) (連鎖) (第四十三圖) 一回十六呼

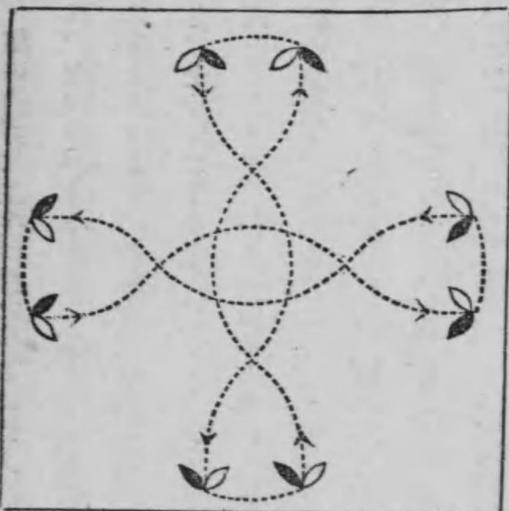


圖三十四第

八呼間に兩伍の右生と右生とが進み、互ひに右手をとり、對伍の左生と左手をとりて右回す、八呼間にて以上の動作を行ひて舊位に復し伍の左生と左手をとりて右回す。

一五二、ダブルレデイースチェーン (Double ladies chain) (復式連鎖) (第四十四圖) 一回十六呼

第四十四圖



四伍の各右生が同時に進み出で中央にて一伍の右生と二伍の右生と手を上にし、三伍の右生と四伍の右生との手を下にし、十字に交叉する。

一五三、グランドチェーン (Grand chain) 一回十六呼或は三十二呼

八人圓形となり己の伍の者と互ひに手を取りて進み、次の伍の者と互ひに左手をとり、順次斯くの如く行ひ、向側にて伍の者と會したる時默禮をなし、更らに進みて舊位に復し、默禮をなす。

一五四、プロムネード (Promenade) 一回十六呼又は八呼

各伍右轉向をなし、側面縱隊となり、體前に兩手を交叉(右手と右手、左手と左手)右方に行進をなして一周す。

一五五、ガロップ (Gallop) (第四十五圖)

一方の足(足尖)を一步踏出すと同時に他の足(足尖)を前足の踵に引きつけて行進する。



圖五十四第

一五六、踵趾叩歩 一回四呼

- 一、右足或は左足を斜に踏出すと同時に足尖にて地を叩く。
 - 二、足尖にて地を叩く。
 - 三、足を舊位置に復すると同時に踵にて地を叩く。
 - 四、更らに踵にて地を叩く。
- 一五七、舉踵追歩 一回三呼
- 一、右足或は左足を一步前に踏出す。
 - 二、後なる足を前なる足に引きつくと同時に踵を擧ぐる。
 - 三、踵を下ろす。

舞踏の種類及其名稱並びに準備運動

舞踏は左に男(Gentleman)右に女(Lady)兩人相列びて行ふを正式とすれど、便宜上(Gentleman)を左生(Lady)を右生となし、左、右兩生を一伍とする。

伍の對向したる時は之を對伍と稱し、左、右を隣伍といふ。

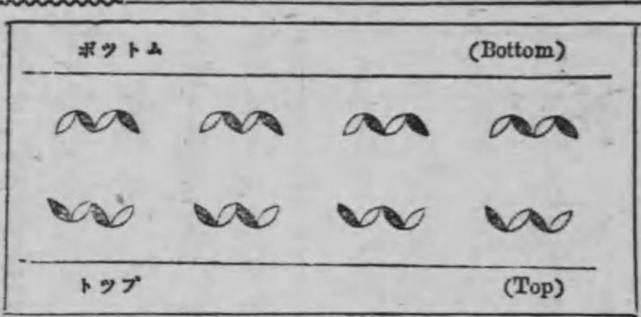
圓舞 (Round dance)

圓舞は圓く輪を造りて行ふものである、先づ二列横隊に集め、前列を左生又は(内生)後列

舞踏の種類及其名稱並びに準備運動

圓舞

對舞



對舞 (Contra dance)

對舞とは幾何の伍が相對向して行ふものである、一列をトップ又は一番と稱し、他の一列をボットム又は二番と稱す。(第四十六圖)

對舞を排列せんとするには二列横隊にて片手間隔に整頓せしめ、集りたる二人を一伍とし、前列を左生、後列を右生とし、一、二の番號を附し、一の番號の伍をトップ(一番)二の番號の伍をボットム(二番)とし、右轉向をなし、八呼間にトップを右方にボットムを左方に側進せしめ、終りに對向(第四十七圖)又は二列横隊にて片手間隔に整頓をなし、前列をボットム(二番)後列をトップ(一番)と定め、一、二の番號を附し、一の番號のものを右生となし、二の番

號のものを左生となし、左生は一步右即ち右生に近寄りて伍を作り、前列六歩を前進し、背面となりて對向する。(第四十八圖)

方舞 (Square dance)

方舞とは四伍方形に對向して行ふものである。

一の伍を (Top) 又は第一番又は一伍と稱する。

二 (Top) トップの對伍をボットム (Bottom) 又は

第二番又は二伍と稱する。

トップ右隣伍をライトサイド (Right side) 又は第

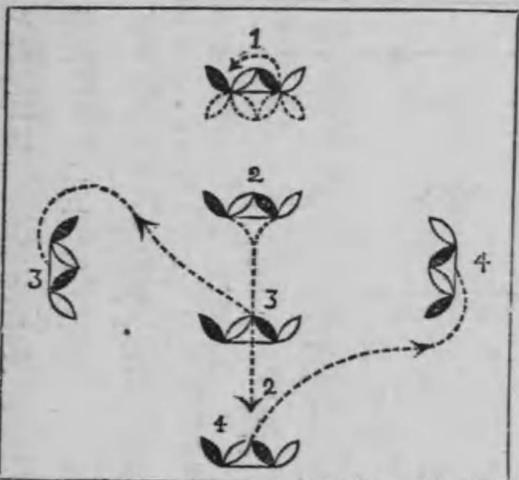
三番又は三伍と稱する。

トップの右隣伍をレフトサイド (Left side) 又は第

四番又は四伍と稱する。

此四伍を一組 (Couple) とす。

方舞を排列せんとするには二列横隊に集め、片手間隔に整頓せしめ、重なる二人を一伍とし、前列を左



第四十七圖

生後列を右生となし、四の番號を附し、一の番號のものはトップ、二の番號のものはボット

ム、三の番號のものはライトサイド、四の番號のものはレ

フトサイドとし、右轉向をなさしめ、一伍の左生は隣斜右

に一步踏出して後ろ向きとなり、右生は左斜に進み、後ろ

向きとなり、左生の右隣に行き二伍と對向す、二伍は六歩退

一伍と對向、三伍

は左側へ、四伍は

右斜に三步進みて

對向する。(第四十

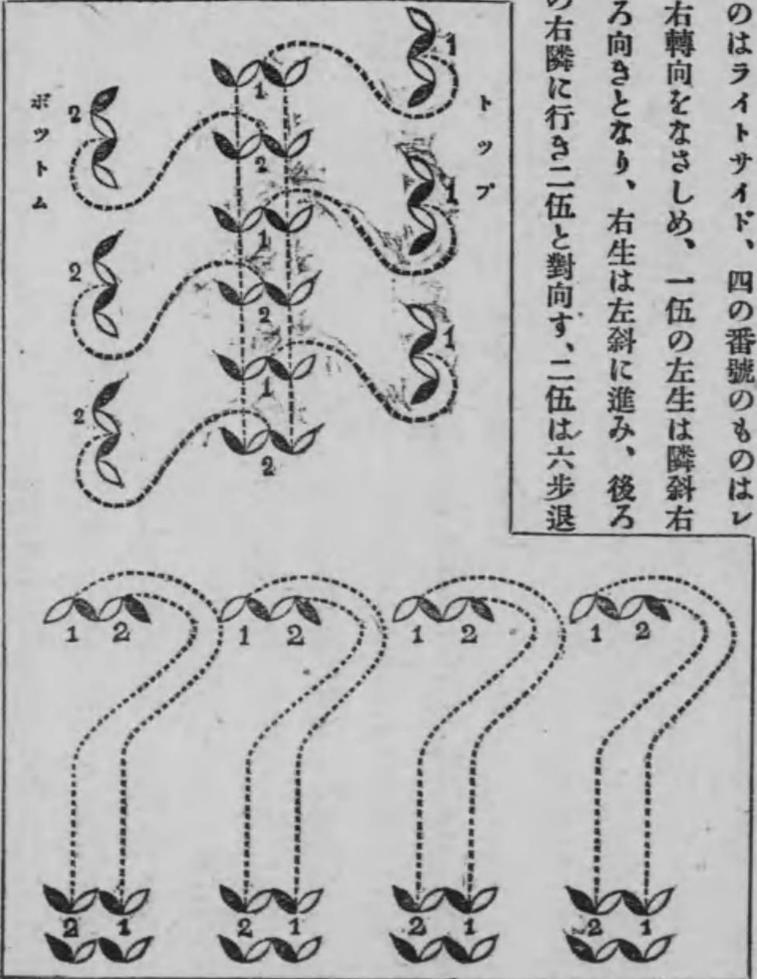
九)

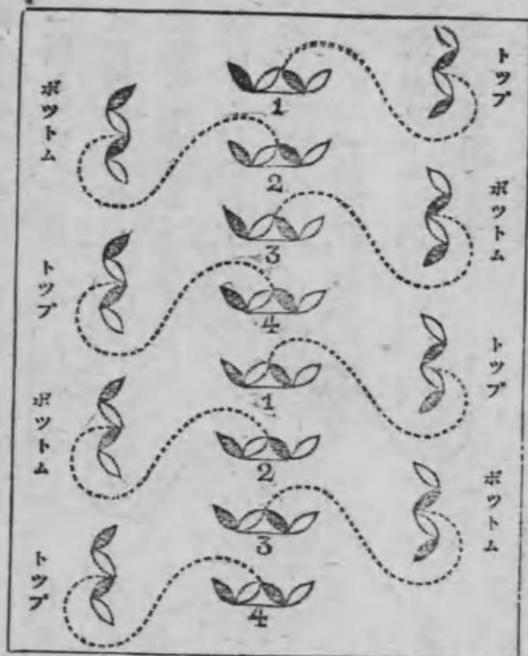
トップ(一番)の

次へボットム(二

番)を置かうとす

るには、二列横隊





第四十圖

にて片手間隔に整頓をなさしめ、相重なる二人を各一伍とし、前列を左生、後列を右生と定め、四の番號を附し、一及び四の番號をトップ(一番)二及び三の番號のものをボトム(二番)と定め、右轉向をなさしめて後奇數の伍は右側方へ偶數の伍は左側方へ三步進み、右轉向をなして對向する。(第四十八圖)

第四部 遊技

第一章 ローンテニス

一、用具

護膜製であつて、薄布を以て蔽ふた直徑二吋位の毬二個。

ローンテニス

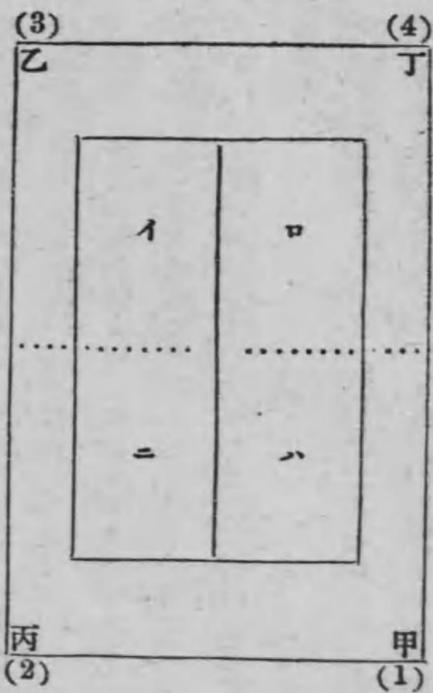
幅三尺長さ六間の網一張り、但し網目は球の貫通しない位なるもの。

二、準備 ラケット(打球器)一組即ち四個、但し小學校用としては重量輕きものを選びがよい。競技場は平坦なる地であつて、砂に石少なき箇所を良しとする、圖の如き競技場即ちコートを設定するには普通は石灰を以てなすか又は細繩を張り、若しくは板を地平面に埋めてなすがよい。

コートは長方形であつて、長邊は十三間短邊は六間である、即ち之を外劃線となし、更に其の中に長さ七間幅四間半の長方形を作り、之を内劃線となす、内劃線を更に二等分せんが爲めに中央より縦に一線を引くがよい。

又圖中の點線は網を張る所に相當するものである、即ち網はコートの中央を横に張り、高さ三尺にして十分弛みなく強く張らなくてはならぬ、又之を支持する柱は傾斜し易きものであるから其下端を地中に埋めて之に二本の麻繩をかけ十分後方に引きて傾斜せぬ様にするがよい。

競技者は四人を以て一組となし、二人宛相分れて行ふものである、而して始めて打ち出す者は、圖中の位置に居り他は自己の屬するコート内ならば何處に居るも差支ない。



三、方法 (甲) 競技用語、
 (1) サーブ競技の始めに於てコートの一隅より球を打ち出すをいふ、即ち圖中(1)より(イ)のコート内に打ち込む事である、而して之を行ふ人をサーブアイトと云ふ。

(2) フェアボールサーブアイトの打ち出したる球の有効なるものを云ふ。

(3) フォールト、サーブアイトの打ち送つた球が適當劃線内即ち(イロハニ)のコート内に落ちざる場合、之は對手のコート内に達せないうで、網に觸れて落ちたる球を云ふ。

(4) フォールトアゲン、サーブアイトは二回サーブするを得るものだけれども若し二回ともフォールトであつた時は即ちフォールトアゲンにして其組は一點の敗となる。

(5) ノーカウント、サーブの球が網に觸れて適當のコートに入るか、又は内劃線上即ちライン上に落ちたる時若しくは對手の用意せないのでサーブせし場合、又は偶然に起つた妨害

のある時等に用ゆることであつて、其球をば計算に入れずして再び遣り直すべきことである。

(6) アウト、コート外に落ちた球に令することである。

(7) セーフ、アウトの疑ある球に對し其否らざることを證する語である。

(8) レイチー及びプレー、前者は用意の意にして後者は始めの令である、何れもボールを添へて云ふべきを省けるものである。

(乙) 競技方法

プレイの令にて甲はサーブアイトとなり、(イ)のコートに向つてサーブする、然るに最初の球はフォールトとなり、二回目の球フェアホールとなりたりとせやうか、乙者は其球のパウンド(球が一旦地に落ちて後はね上るを云ふ)するを待ちてラケットを持ち之を受け返して網を越し、對方の外劃内即ちコート内に落ちたのを甲丙の何れかは之を受け返へさんが爲に誤つてコート外に出たりとせば即ちアウトなるを以て其者は一點の敗となる。

次に丙がサーブアイトとなつて、球を(ロ)のコート内に打ち込みたるも、丁は之を受け損じ

たりとせば即ち一點の敗である、是に於て兩方とも一點宛の敗即ち(ワンオール)と云ふ、次ぎに甲のサアープはフォールトアゲームを以てカウント(點數)は(ツーワン)となる、次は丙のサアープで兩組とも各々其任務を盡し能く戦つても、甲のラケット網に觸れたるを以て遂に(スリーワン)となり、餘すところ、僅かに一點にして甲丙の方の敗に歸せんとする、即ち責任を以て立ちた甲は心地よきまでに強きサアープを出したるも、乙亦こぞと巧みに受け返したる爲めに反つて丙はこれを受け損じたのである、こゝにて丁の一點に對する甲丙は四點の敗にて遂にゲームとなる、即ち甲丙は敗けたのである。

次ぎの組み入り代つて丁に對する。此處は乙のサアープに始まり、次ぎは丁のサアープ又このサアープとなり、斯くして順次相戦ひ兩組互角の敗にて三點に對する三點なる時は(ジュース)と云ふ、尙引き續きて行ひ兩組一回宛敗けたならば(ボース)とて兩組引分けたり、(多數に行ふ場合はゲームを急ぐ時の例である、若し然らざる時は尙一回行ひて決勝することとする)

(丙)

勝敗點數の呼び方に二種ある、其の勝點を呼ぶと敗點とを呼ぶことこれである、然れども

普通敗點を呼ぶものとする、故に今は敗點を呼ぶことにせやう、而して又呼ぶ方法に二種ある、即ち數の多き方を先きに呼ぶこと、數に關せずサアープした組の方を先きに呼ぶこととあるけれども今は其後者を採つて行ふこととせやう。

- (1) ワンゼロ、一點の勝敗ありしこと、即ちサアープ組の敗である。
- (2) ツーゼロ、サアープ組二點の敗である。
- (3) スリーゼロ、三點の勝敗あり、サアープ組三點の敗である。
- (4) ゼロゲーム、サアープ組四點敗け、此時組は交代となる。
- (5) スリーワン、サアープ組三點の敗に對する對手方一點の敗である。
- (6) スリーツ、三點に對する二點の勝敗ありしことである。
- (7) ツーワン、二點に對する一點の勝負ありしことである。
- (8) ツーオール、兩方共に二點宛の敗である。
- (9) ワンオール、兩方共に一點宛の敗である。
- (10) ジュース、兩方共に三點宛の敗點である。
- (11) パンテージアウト、四點に對する三點の勝負あつたこと。

- (12) バンテージイン、三點に對する四點の勝負あつたこと。
- (13) ボース、ジュースの後兩方共に一點宛の負あつたこと。
- (14) サアープは外劃線の右の隅より始め、次に左隅次には又右隅と右左交互に行ふべきものであつてサアープアアは或は一定せざることがある。
- (15) サアープをする組は一勝負毎に代はるものである。
- (16) サアープアアガ打ち入るべき場所は、其對角の敵の内劃線内、即ち圖の甲であれば(イ)のコートならば(ニ)のコートである。
- (17) サアープアアは一箇所に於て二回までサアープすることを得、併し一回にすることもある。
- (18) サアープの送つた球丈は、一回バウンドした後でなければ受け返してはならぬ。
- (19) セCONDバウンドせし球を受け返すか、又はサアープアアが二回續けてフォールトせし時若くは球が外劃線外に出でたる時、及び球を打つ時、身體衣服ラケット等が網に觸れた時、又球が網を潜つて敵のコート内に入つた時は、悉く一點の敗となるものである。

備考

以上は普通一般の説明のみであつて、所謂専門的の細部にわたれる事柄は之を省いた。

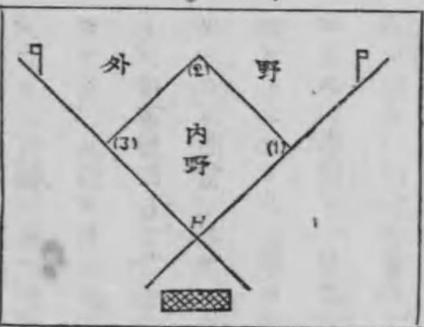
第二章 ベースボール

一、用具

- ボール (重量三十匁周圍六寸五分位)
- バット (打棒) 長さ三尺五寸位、直徑二寸二三分。
- ミット、及びグローブ (手袋) キャッチャースミット、ベリスマンズミット等あり、グローブは革製にして普通の手袋の丈夫なる物。
- マスク (面當) キャッチャー (取手) の使用するものである。
- サスペンソリー (鞞丸當) 取手の用ふるものである。
- ベイス (壘標) 一尺二寸四方位のズツク袋にして、中に鋸屑モミ殻を入れる、ネット (網) 長さ五間巾二間位のもの。
- フラグ (旗) 普通の旗二本。

二、準備

競技場は、廣潤なる平地なるべし、今之を設計するには石灰を持ちて上圖に示すが如く正確に區劃すること。



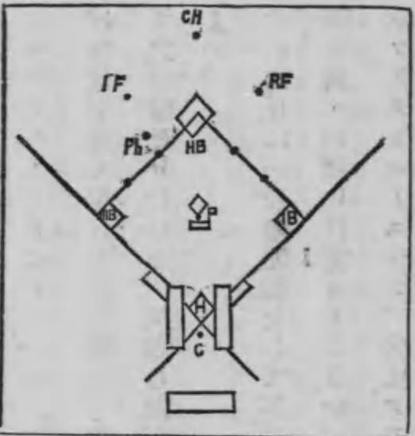
圖に示すが如く十五間四方の眞四角なる線を引き(H)より(1)及び(3)に達する線を延長すること各十間位にして其の末端に各々旗を立て(2)を中心として兩旗の間を外野といふ、同時に、又(H)(1)(2)(3)の四角形の中を内野と云ふ、尙又(1)(3)より(H)に來る線を交叉して適當に延長した兩線の間であつて(H)の後方凡そ十五間の處に網を張り以て球の遠く逸するを防ぐものである。

ベースの着け方。

ベース四個を圖の如く(H)(1)(2)(3)の四隅に着く、其の着け方は(2)を除くの外は均線に従つて内側に着け(2)は二線の相合する點をベースの中心となる様に着くべきである。Hは本壘にしてホームベースと云ふ第一壘をファーストベース、第二壘をセコンドベース、第三壘をサードベースと云ふ。

投手の投球所。

内野の中心であつて、一尺五寸位本壘に近づいた所に石灰を以て本壘に面し、横に長さ二尺巾五寸、即ち圖の如く着くがよい。



之をプレートと云ふ。

打手と打球所。

打手には左右何れにても行はるゝ様、左右にある長さ六尺巾四尺(石灰に線を引く)にして本壘より各各五寸宛隔たつてゐる。

三、方法

(甲) 競技者任務及準備

一組を九人となして二組相對して行ふ、故に演技者十八人を要する、外に審判者二人及び筆記者一人を置く、而して二組の内何れか一方は攻撃隊となり、一方は防禦隊となる。

(1) ピッチャー又はピッチ(投手)は符號Pを書き、内野の中央投球所にあつて打手に向つて投球せんとする時は必ず先づ定位置に着き球を左手より右手に移し一足は劃線内に置き片

足は踏み出して投球する、而してPは打手計りに投球するではない、壘に居る敵が大膽にも隙を窺ひて壘を離れた時、又は次ぎの壘を奪はうと思つて走り出た時、壘の大將に投げ渡すがよい、其の他打手の打つた球が内野に来れる時は之を受け止めて壘將に投げ渡す、又壘の大將が球を追つかける爲に空壘生ぜし時は代つてこれを守ることがあるであらう。

(2) キアツチャイ又はキャッチ (取手) 符號Cであつて、本壘の凡そ二歩後方に居りPの投げた球を速く受けて之を復し、又は敵が壘を離れ次の壘を奪はんと進む時其の壘將に投げて之を撃死せしむる、又若し敵が本壘に入らんとした時は、自ら壘將となつて之を防ぐがよい。

PCは互に一致の運動をして其の缺點を助け會ひ、以て打手或は走手をして乗すべき、間隙を與へぬ様に注意するがよい。

(3) ファストベースマン、又はファスト (第一壘將) は符號IBと呼び、第一壘を守る、此の第一壘は初壘なれば敵を殺すこと最も多い、即ち味方の何れもよく投げ来る強き球を巧みに受取つて自己の壘に入らんとする敵の體に觸れさせる、然しながら其身ベースに離れ居れば受け取つた球は無効である、故に成るべくベースを離れざるやうにするのがよい、

但し離れて受け取つた時は速かに來つてベースを踏み、而して敵をアウトせしむるがよい。

(4) セCONDベースマン、又はセCOND (第二壘將) は符號をIIBと呼び、第二壘を守る、先づIIBより進み來る敵に球を觸れて之を殺し、又自己の傍邊に來る球等は速く拾つて利ある方面の味方に送る、又凡て敵の打つた球が外野に逸せないやうに努め、又は外野手より送り來る球を受け次ぐ等の任務がある。

(5) サイドベースマン、又はサイド (第三壘將) はIIBと呼び第三壘を守る其の任務はIB、IIBと略同じ、但し此ベースはホームベースに近くして敵の打ち球、又多く此方面に來るものであるから其任務亦重きものである。

(6) ショートストップ、又はショート (遊撃の) と呼び IIB、IIB との間に位して内外野の外線の線より三尺計り後方に居りて敵の打つた球を取つて壘將に送り、且つ IIB、IIB を助け取り損じた球、又は壘の空虚となつた時は代つて之を守る等迅速に何れの方面にも遊撃するものである。

(7) レフトフィールドアー、(左翼) はIIBと呼びてその後方に位置し、後方の外野全體を守り、SS及びIIBを助くるものであるから比較的足の速き人をよしとする。

(8) センターフィールド、又はセンター(中堅)はCFと呼びIBの後方にあつて外野の中部全體を守り主としてIBを助けるものである。

(9) ライトフィールド、又はライト(右翼)はRF又はRにしてIBとIB間の後方にあり外野の右方を守り、且つベースマンをば助ける任務がある、又IBの受け損じた場合には主として之を受け止むべく努めるがよい。

(10) バットマン、又はバッター(打手は九人の攻撃手、即ち順次これをなす、先づ一人宛打棒持ちて打球所に出て、Pの投げたる球を十分に打ち飛ばして自己は走つて、IBに達し、味方をして他のベースを奪はしめる様に努める、攻撃手にして打つべき順の來らぬ者は休息所にあつて休むがよい。

(11) アムバイアー(審判者)は競技者以外の人を選びて出し、競技に關する勝敗を公平に裁判するものである、一人はPの後ろにあり一人はCの側方に位置するものとする。

(乙) 競技方法

レヂイ(用意)プレー又はプレーボール(始め)にてバッターはピッチャの投げた球を打つてファストベースを奪ふ、猶餘裕あらばセコンドベースを奪ふ事も出来るけれども、今

は餘裕なくしてファストベースに止まつて二番の打つに乗じて進まんとする二番も亦一番の如く十分打ち飛ばして走り、(バッターが球を打つて打球所を出ればランナーと變名せらる)而してファストベースを奪ひ、尙餘裕あらばホームベースをも奪ひてホームイン(生還者)となり、攻手は一點を得ることが出来る、又此の間に二番のランナーはファストベースを出で、セコンドベースに入らんとせしに早や球はセコンドの手に入つたる爲めアウト(死)となる、斯の如くして、三四番のバッターも不幸にしてアウトとなつた場合には既に三人の死者を生じた爲め此時兩軍は其の任務を交代して攻手は守手となり、守手は攻手となる、斯くして一回了つたのである、(即ち兩組とも一回宛攻手とも守手ともなつた時である)斯くして九回若しくは六回の後點數の多き方を勝とする。

(丙) 競技規則

(1) ボーク(不正の投方)とはPに下す宣告にしてピッチャーがプレートを踏まざるか、或は離れたるか或は一方に全く投ぐる眞似をして他方に投ぐる等によつて起るものであつて、此の場合にはバッターはランナーとなつてIBを奪ひ、其他のランナーは何れのベースにあるも次のベースを奪ふ事を得るものである。

(2) ホオワールボールス、とは、¹の投げた球が本壘のベースの上にて打手の膝より上、肩より下を通らぬ時、即ちフェアボールでない球、審判者は之をホールと呼ぶ、即ち悪しき投げ方なりと云ふのである、之を四度重ねた時は審判者はホオワールボールステイクユワールベースと呼ぶ、之れ悪しき球が四度有りし故打手は ¹ に行つてよろしと宣告する、但し悪しき球であつても打手の之を打たんとしたる時は善き球と見做さるゝものである。

(3) フェアヒット、とはバッターの打ちたる球がフェール線内に落ちし時即ちよき球である、故にバッターはランナーとなる、其の他ベースに居つたランナーも其の球の効力有る限り行ける迄行つて壘を奪ふがよい。

¹を取つた時審判者はファーストベースセーフと云ふ。

²を取つた時はセコンドベースセーフと云ふ。

³を取つた時はサードベースセーフと云ふ。

ホームベースに入つた時はホームインと云ふ。

以上は共に安全といふ意である。

フェヤヒットにて進むか又隙によりて進む内其先方のベースに入る時球の方が速き時はラ

ンナーはアウトとなる、即ち左の如きである。

¹なる時はファーストベースアウト。

²ならばセコンドベースアウト。

³ならばサードベースアウト。

ランナー走りつゝある途中に於て球を付けられた時はランナーアウトとなる、又ランナーのベースに入ると球の入ると同時なる時はセームタイムセーフと云つて其ファーストを除、の外は悉くアウトとなる。

ランナーは走つてベースに付く時 ¹の外は正しく止つてベースに體の一部を付け居らざれば球をあてられてアウトとなる、然れども ² 丈は一度ベースを踏まば其の走る餘力によりて行き過ぐるも差支がない、然れども若し左廻して再びベースに付かうとせる時球をあてられればアウトとなる、これ即ち ² に走らんとせしものと認めらるゝ故である、故に必ず右廻してベースに付くがよい。

ランナーの一人何れの場所に於てもアウトとなる時はこれワンアウトにて其二人なる時はツニアウト三人なる時はスリアウトにて兩組交代となる、此時壘上に居れるランナーは

スタンディングとて無駄骨折となる。

ランナー三人ありて各ベースに満つる時はフルベースといひ審判者は演技者殊にランナーに向つて注意する。

(4) ファウルヒット、とはバッターの打つた球がフェール線外に落ちた時を云ふ、審判者は略してファウルと呼ぶ、此時はPが投球する迄はタイムの命なくとも休戦である。

(5) ストライクアウト、とはバッターが打球以外、又は故意に變な打方、又は卑怯なる打方をなした時に用ゆ、又Pの投げた球がフェアボールであつてバッターを打たざるか又打つても當らざる時はストライクワンと云ひかゝること二回であればツーストライク三回であればスリーストライク(三度振)といふ、此時バッターは直ちにランナーとなりIBに走るがよい、若し又スリーストライクの球をキャッチャーに取られた時はバッターはアウトとなる。

又ツーストライクになる迄はファウルも數へらるゝものであつて、例へばファウル二回重ねた時はツーストライクにして尙一回當らない時而かもキャッチャーが受けた時はアウトとなる。

(6) フライアウト、とはバッターの打つた球が地に着かない内に敵の一人が取つた時はアウトとなるを云ふ。

(7) デットボール、とはPが投げ誤りてバッターの體にボールを打ちつけた時は、審判者はデットボールテイクユアベースと呼びて、バッターはIBを奪はるゝものである。

(8) ロストボール、開戦中球の見えなくなつた時に下す命である、此時は各ランナーは其位置に止まるものである。

(9) バッスボール、ピッチャーの投げた球がバッターの持つ棒にもベースにも觸れぬものをキャッチが取り損つた時はランナーは次のベースに進む餘裕があらば奪ふことを得、然れども二つのベースを奪ふことを許さぬ。

審判者はバッスボールワンベースと呼ぶ。

四、備考

以上は一と通りの説明のみに過ぎずして所謂専門的説明を省いたものである。

第三章 フットボール (アツソシエーション式)

フットボール
アツソシエーション式

一、用具

ボール圓形護膜製にして革を以て蔽ふ。

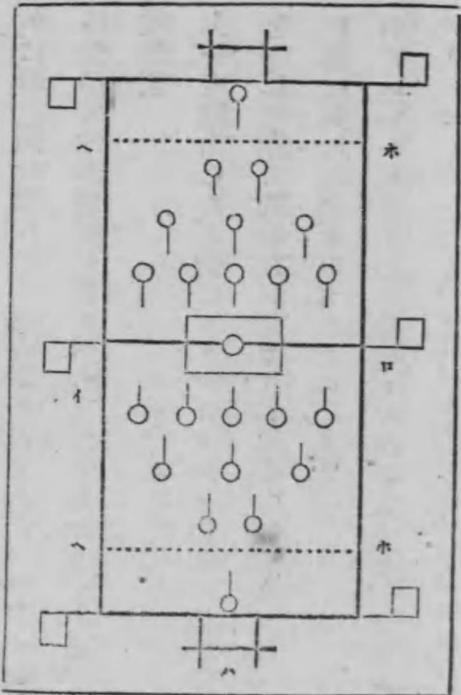
ゴール (毬門) 通常高さ一間半幅四間位、三本の柱を以て作る。

旗紅白の旗各三本宛、呼子笛、これ審判者の用ふるものである。

二、準備

コート (競技場) は圖の如く長方形に石灰を持ちて線を描き、縦線をタツチラインと稱して其長さ五十間、横線をゴールラインと云つて長さ二十間となす、之れ最小なる設計である、都合によつては其の二倍の長さに成すも良い、凡て此式に於ては横は縦の半分なるをよしとする。

コートは最も平坦にして廣潤なる芝原を選ぶがよい、圖中 (イロ) 線は全庭を中分したる線であつて、其の中心にある輪圓は競技の始め鞠を置く所である。



ホへ、の線はゴールラインより二間半隔たつて描き、ゴールキーパー以外の者は入つてはならぬ。ゴール線上の (ハニ) は毬門でなければならぬ、此演技は正式には十一人宛の二組即ち總計二十二人を要し、外に審判者一人あり、而して其排置法は圖に示すが如く先頭

三、方法

競技の目的は敵のゴール内、即ち毬門に鞠を蹴込むにあるのである。先づチャンケンを以て先きに蹴る組を定めて其組の一人右出す、他は鞠の五間以内

つてはならぬ、其一人の一蹴によりて茲に競技は開始となる、乃ち先頭中央、後備隊共に進み入り代つて、頻りに鞆を蹴立て、敵の毬門に蹴込まんことを努める、ゴールキーパーは止むを得ない時の外一步も守地を離れないのを可とする、而してゴールキーパーを除くの外は如何なる場合あつても鞆に手を觸れることを許さぬ、然れども鞆の高く上つた時などは頭を以て之を受け止むるを得る、ゴールキーパーは守地又は何れの場所にあるも、自由によりて使用するものなる丈其責任が重大なるものである、譬へば今ゴールの前方僅かに四五間の處に於て敵の爲めにブレイスキックせらるゝ時の如きはゴールキーパーの外は皆殆ど袖手傍觀せざるべからざるが如きである。

競技規則

1) 一度蹴出したる鞆にゴールキーパー以外の者が手を觸れば、審判者は直ちに休戦の命を下して鞆を其場所に置きて敵に蹴させるのである、之をブレイスキックと云ふ、即ち敵の爲に其の権利を取られたのである。

2) ブレイスキックして鞆ゴール内に入らず、ゴールライン又はタッチライン外に出た時はデットボールとなり、今度は反對に敵のゴールキーパー又は敵方の競技者の一人は出て、

ドロップキックある事を得るのである、其他如何なる場合にもブレイスキックの権利を得て、自由蹴をなし其鞆がデットボールとなる時は對手にドロップキックせらるゝものである。

ゴールラインより脱すれば、ゴールキーパーはホへ、の線上にて蹴りタッチラインより脱すれば競技者の一人脱せし所に運びドロップキックをなす、ドロップキックとは鞆を手にて支へ、之を地上に落し、其の地面に着かない前に蹴飛ばすことである。

(3) 敵の一人が蹴つた鞆にして、ゴールラインを脱する時は其の組のキーパー之を拾ひてホへ、線上にてドリツピングするがよい、若し又タッチラインを脱すれば其組の競技者の中にて、巧妙なる者出て、脱した線上にてドリツピングするものである、此場合若し蹴出したもの其の組の者たる時は敵手の中一人出て、鞆の脱した所に於てドリツピングをなす。ドリツピングとは單に鞆を蹴ることである。

(4) 鞆がタッチライン又はゴールラインを脱するに其の蹴つた者、其の組の者であるか、又は何れの組なるか不明なる時は、審判者は之を取つて何れのラインなりとも之を直角の方向に投げ込む、此時兩組は列を作り、相對して速かに蹴るべき用意をなす。

(5) 何れの者も敵の陣地内に入ることを得れども（ホ）線より先に踏み入つてはならぬ。

四、備考

審判者の吹いた呼子の音を聞かば全員悉く競技を中止し、再び笛聲のあるを待ちて開戦すべき様定むるをよしとする。

競技中他人の衣服身體に觸れて自由を侵害してはならぬ。

書記一名を置きて記事を司らせること。

第四章 フットボール（ラクビー式）

フットボール（ラクビー式）

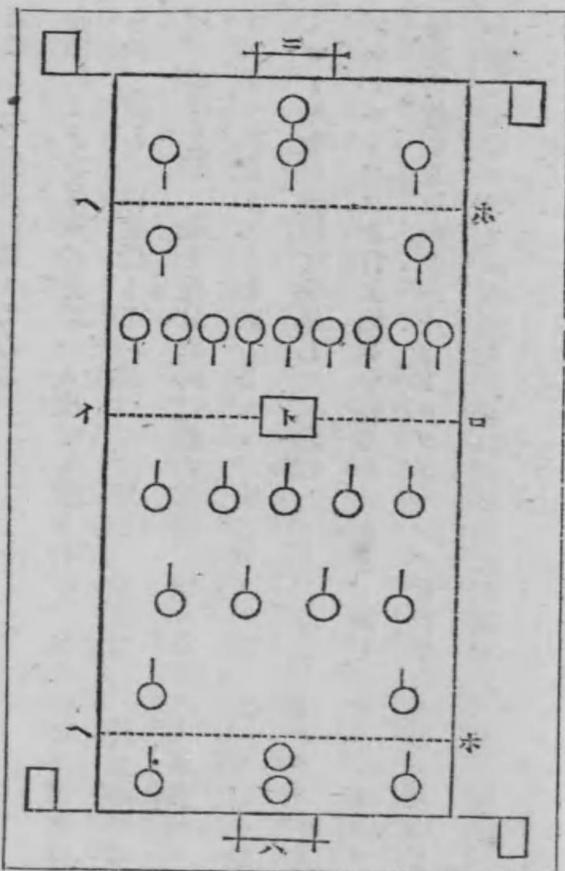
一、用具

ギール、楕圓形なるもの。

ゴール（球門）通常高さ二間幅四間。

二、準備

コートはアツンシエーション式に述べたる如く長方形即ち圖の如くする、タツテラインは



十間にしてゴールラインは三十五間である。

ゴールラインより十一間離れた所にホへの線を描く、又ハニ、はゴールである。

競技者は凡て三十名外に一名の審判者を置くを正規とするけれども、人員これに満たぬ

時は廿二名にて行ふこともあるであらう。

競技者の排列法攻撃隊と防禦隊によつて異なる、即ち攻撃隊は中央線に近づく、九人一列の横隊となり、防禦隊は先頭隊五人中央隊四人の準備に位置する、其他は何れも圖のやうである、而してイロ、線の中央ト點は始め鞆を置く所である、即ち靴の踵を以て少しく地を

掘りて其中に入れて置くのである。

三、方法

此競技の目的はアツンション式と同じ、然れども此に於ては敵のゴール内に鞠を蹴込むにあらざしてゴールを蹴越さすにある、而して鞠を取扱ふにも一般に手足の使用を許すところ前者と異つてゐる。

合圍により攻撃隊の先頭一人出で、蹴り初む、其の時に防禦隊は五間以内に近寄つてはならぬ、而して鞠を受くるに當つて片足を一步踏出し、踵を確かに地上に踏付け、足尖を挙げ、兩手を以て鞠を受けた時は他の妨害を受くる事なく當然鞠を敵のゴールに向つてドロップキックなすことを許さるゝも、敵のゴール近きか、又は強敵かないと見れば鞠を抱いてゴールを目懸けて突進しつゝ蹴越さすか乃至はゴールラインを踏み越へてトライを得てプレーキックを行ふ権利を得るかにあり、併しドロップキックの権利を得たもの、一旦突進の態度を取つた以上はドロップキックを行つたものとなつて敵手はゴールに踏越さるか若しくはトライの権利をとられない様に突進を防ぎ絆を奪ふべく努める、若し敵に襲はれて奪ひ取られんとなした場合は助勢なき時はダウンと呼びて之を下に置くべし、然

る時は兩組の先頭隊と中央隊とは出で、鞠を中に置きスクラムメーヂを始め、此時鞠が圍體外に轉げ出たらば速かに拾ひて最初の如く競争をなす。

又蹴つた毬がタッチライン外に脱した時は其の蹴つた相手の一人が之を拾ひ取り、鞠の脱した點より投げ込むがよい、此時は兩組ともタッチラインと直角をなし、一列を作りて相對向する、而して中央なる投手は鞠を投げ、若し又鞠がゴールラインを脱した時は兩組とも速く之を取ることゝ務めるがよい、此時其のゴールに屬する組の者を取らば、ホへ線まで持ち來つて敵方に向つてドロップキックをなすを得、又敵手に之を取らるゝ時は直ちに地上に下してトライの権利を取られるものである、其他勝敗等は凡てアツンション式と大差がない。

競技規則

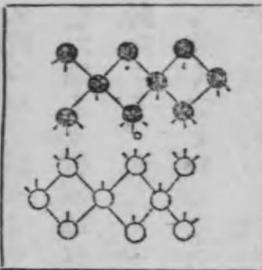
- (1) ドロップキックとはアツンション式と異なることなく如何なる場合でも他人は之を妨害してはならぬ。
- (2) 敵の一人が鞠を攫んだまゝゴールライン外の地上に着けた時は其鞠を着けた位置よりタッチラインに並行し、ゴールに蹴込むに都合よき、ホへ線とゴールライン内にてプレーキック

キックを行ふことが出来るのである。

(3) プレリスキック、とはアツツシエーション式と同じくホへ、線上にてする場合とゴールラインと、ホへ線内にてなす場合とあり、何れの時と雖も他人の妨害するを許さぬ。

(4) デッドボールも亦アツツシエーション式に同じ。

(5) スクラムメージ、とは格闘の意であつて双方の先頭九名宛圍の如く排列して中央へ投げ込んだ球を互に推し合ひ敵手に渡さずして敵陣へ幾歩たりとも近づきて利益を得んことを努むるのである。



此の場合はタツチラインの一丈五尺以内に近寄つて行ふことを禁ず、但しゴールラインには此規定がない。

(6) ダウン、とは下に置くの意である、即ち敵に肉薄せられて將に鞠を奪はれんとする時之を呼びて鞠を地上に置かば敵は之を奪ふこと能はず、こゝにスクラム始まるのである。

四、備考

審判者笛を鳴らさば如何なる場合にありても休戦すること、但し審判者の位置は不定なり

とする。

此式はゴールを蹴越さするにあるを以て、餘程の熟練を以てするでなければ出来得るものではない、故に學校又は未熟練に於てはゴールを低からしめるか或はアツツシエーション的に門を潜らすやう行ふこともあるだらう。

クリツケ
ット

第五章 クリツケツト

一、用具

打棒二本(打棒は裂け易いものであるから堅材にて作るがよい、其長三尺二寸、幅三寸五分、持つべき柄の部分は一尺三四寸位である)

球一箇、(球は革製にして周圍は八寸以内重量三十五匁以下であるけれども年少者には野球の球にても可い)

門柱(スタンプ)及び横木(ペール)、門柱は一組に三本を要する、其長さは地上二尺二寸の高さに建て三柱の頂に横木一本を安置して門を作るのである。横木は普通長さ四寸位で

ある、複門にて行ふ故に以上を二組要す。

手袋(スローブ)門守と打手とが嵌めるのであつて相異なるものを四組用ふ、脛當て(ツキンクス)、竹を編みて作り兩門の打手と之に次ぎ出場すべき打手とが用ふるものであつて四組を要す。

其他網又は筵等を用ふるものである。

二、準備

(甲) 圖



競技者は全體二十二名であつて之を二分して二組となす、外に審判者及書記一名宛を作る。

二組の内打手組(バッタース)野手組(フキルダース)とを定め打手組は二人宛順次に出て、所定の場所にあつて働くものであつて、野手組の十一人は各定めた地にあ

りて其の職務を盡すものである、審判者は普通投手の傍に位置する。

競技場は平坦にして一丁四方の芝原を適當となす、但し女子又は年少者には多少の差がある、先づ圖の如く設計をなし、適當に野手組の配置をなす、又打手組の二人は兩内の前に位置をする。

三、方法

甲、競技者職責及配置

野手組は左の如く分ちて各其位置につかせる。

- (1) ポーラー (投手)
- (2) ウイツケットキーパー (門守)
- (3) ロングステツプ
- (4) ロングレツク
- (5) ロングスリツプ
- (6) ポイント
- (7) カーパーポイント

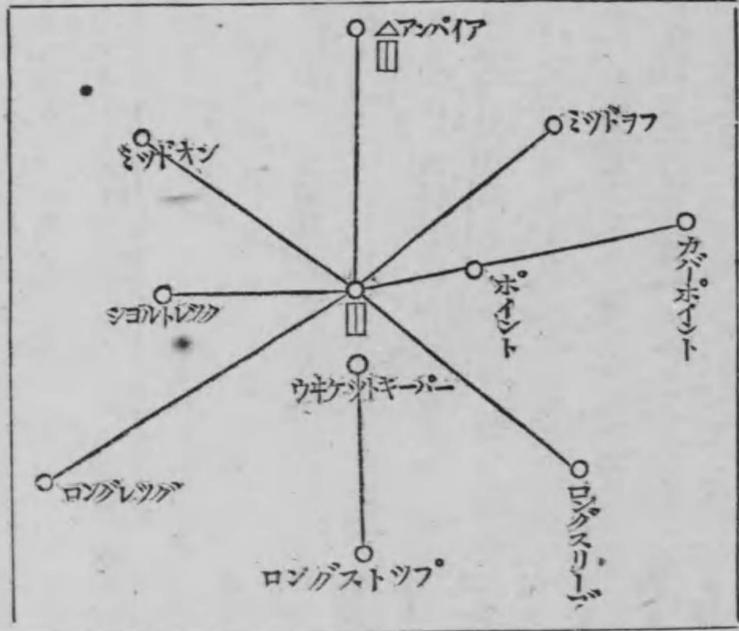


(圖 乙)

- (8) ショートスリツプ。
- (9) ショートレッグ。
- (10) ミッドオプ。
- (11) ミッドオン。

右野手組の配置法は規則によりて定めらるものではない、故にポラーが連球を投げる時は甲圖の如く、緩球なる時は乙圖中球なる時は丙圖の如く、其の組の將たる一人が暗號を以て陣取らしめるものである。

(1) ポラー、はベースボールに於けるピツッチャーの如くにしてポリングクリースに立ちて敵の門を破るか、又は球に緩急を與へて打手をして苦しませる事をする。又敵の隙を得るに於ては門を破り、或はバッターの高く打ち上げた



(圖 丙)

球を取る等の任がある。

(2) ウキツケキーパー、は門の後方に居て對岸の授球手と意を通じ、兩打手の位置を交換しやうとするを困難ならしめる爲め球を掴み取ることに巧まなければならない。

若し打手がポリングスリツプ、を離れたりとしやうか、掴んだ球を以て門を仆して打手をアウトとなさんことを努めさせる。

(3) ロングストップ、は門守の後方に居り彼が損じた球を取り打手が位置交換しやうとする時は對岸の門を仆すべく球を投げさせる。

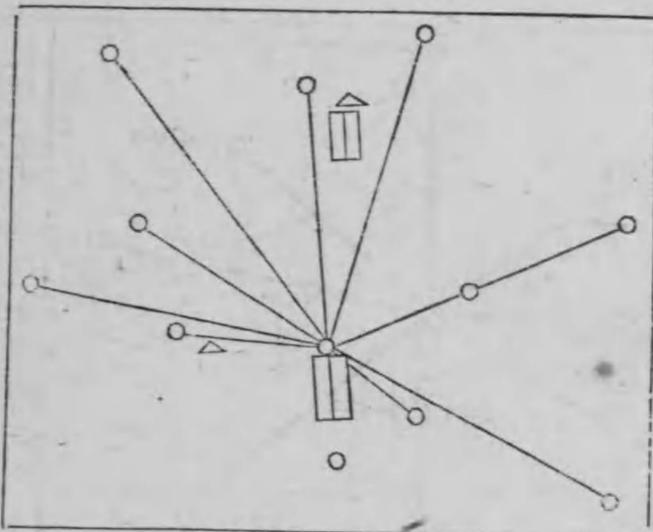
但しかゝる時は門の前方に落ちてバウンドする様投げさせる。之ポイラーに取り易からしめて其の球にて門を仆せることがあるからである。

(4) ショートストップ及びポイントは皆門の左右兩側に居て打手の打つた球を受け之をウキ

ケツトキーパー又は他の味方に送る等の務をなす。

(5) ロングレッグ及びロングスリッブ、は門守の後方たる右翼を守り打手が打つた外れ球を掴みてロングストップの如き働きをなす。

(6) バッター、は攻撃手二人出でて行ふ其の一人はポイラーの居る門の前に、他の一人は門守の居る門の前に立ち、右足をホッピングリリース内に置き兩手にて打棒を握り上體を前方に少しく屈し、ポイラーの投げたる球を打ち飛ばして敵が之を拾つて門を破らない前に對岸のバッタ



(圖) 丁)

と交換する、若し隙あらば何回にても交換させるがよい。

乙、競技方法

部署が定まつた時審判者はブレイの令を下す、茲にポイラーは對岸の門を破るべく投球する、打手は努めて之を防ぐと同時に球を遠く打ち飛ばして相手の打手と交換せんことを計る、野手組は交換するを妨害すると同時にバッターの虚に乗じて門を仆さうとする、野手組に於て門を破ることが出来なければ打手は繼續すると雖次項の諸規則に觸る、時はアウトとなる、此時は其者丈場所を退いて他のバッターと代らせる。斯くて三人アウト(但し此數は始めの定め方にありて一定の規則あるではない)とならば敵組と代りて競技をなし後其得點の多少によりて勝敗を決する。

丙、競技規則

(1) ポイラーはポリングクリース、及びリターンクリースより右足を出して投球すればノイボールとなる、此時に於てはバッターは打球せざるもの位置交換を一回行ふことが出来る。

(2) ポイラーがワイドボールを投げた時は、バッターは位置交換する得點を得るであらう、

但しバッターが之を打たんとせしか又は打つべき動作をなしたる時は有效なる球となすワイドボールとはリターンクリース以外に落つるが如き不正なる球を指して云ふのである。

(3) ボーラーが投球する時肘關節を屈し肘を體に接するが如きことあらば不正球即ちノーボールとなる。

(4) バッターが打球せし時は必ず位置交換を行ふべきものであつて、若し打ちたる後其位置に居らばアウトとなる、又打ちたる球が高くあがつて地へ着かない前に敵手の一人が取つた時はアウトとなる、但し其受け留められない前に交換したらば有效である。

(5) ボーラーの投げた球にバッターの身體が觸れて、球の進行を妨げた時、又は球の進行するを防ぎ得ずして門を仆された時は何れもアウトとなる。

(6) 左の事項をなさばバッターはアウトとなる。

(イ) 位置交換の終らざる前に球を其門にあてられた時。

(ロ) 兩足をポツピングクリース外に置いた時、敵手の爲に其門に球を當てられた時。

(ハ) 持つたバット又は身體にて誤つて門を仆した時。

(7) 審判者は或一人が長く續く場合であつて不都合を感じる時はバッターを代ふる事がある

だらう。

四、備考

此演技法には二種ある、即ちシングルクリケット、とダブルクリケット、とこれである。

此に説明せしものはダブルクリケット即ち複門である、シングルクリケットは單門にして少數なる演技者に適す。

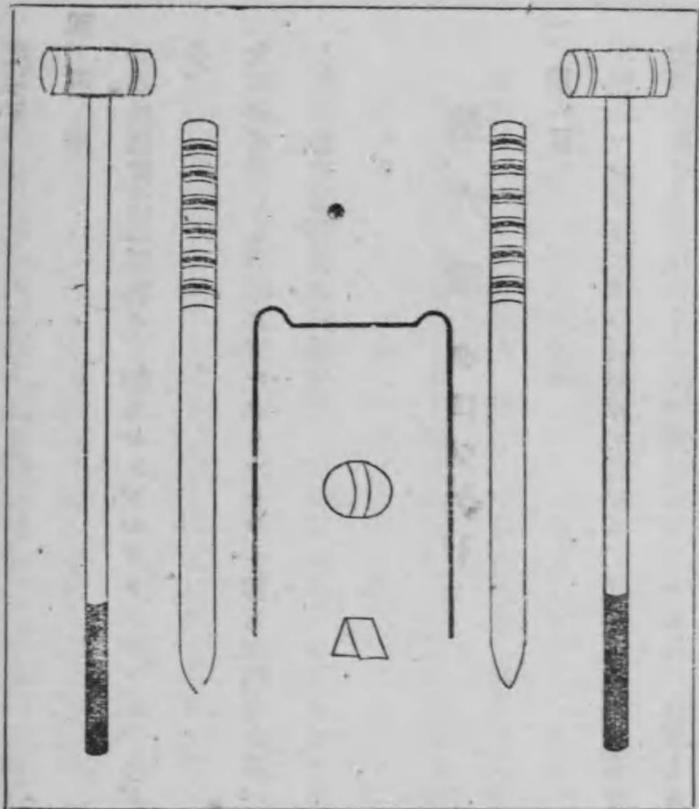
第六章 クロツケ

一、用具

木槌(マレット)は堅材を以て製する、其の長さ四寸五分位の圓柱體を頭となす、其頭の太さは球より稍小さく、其中央に長さ凡そ三尺、直徑七分位の柄をはめたもの一組凡そ十本、槌には各々異つたる色を以て着色する。

木球(ボール)も亦堅材にて作る、大さは直徑凡二寸五分位にして、各球各異の彩色を施

す。



鐵門（ウイックケット）通常の火箸位の鐵線を門形に曲げて其兩端は能く地中に挿入される様に作る、而して兩脚の距離は凡一尺二寸位となし、鐵門の數は場所の造により十本又は八本にて造る。

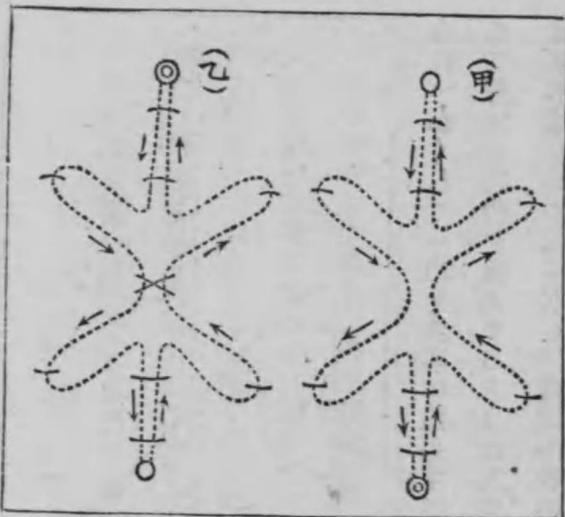
標柱（ポスト）は木製の圓柱にして起程標及び回歸標の二本を備へる、直徑九分長さ一尺五寸位にして、下端は尖つて地中に樹つに便である、其の上端より木槌及び木球の色に合せて一卷宛着色をなす。記票（マーク）小鐵板を二つ

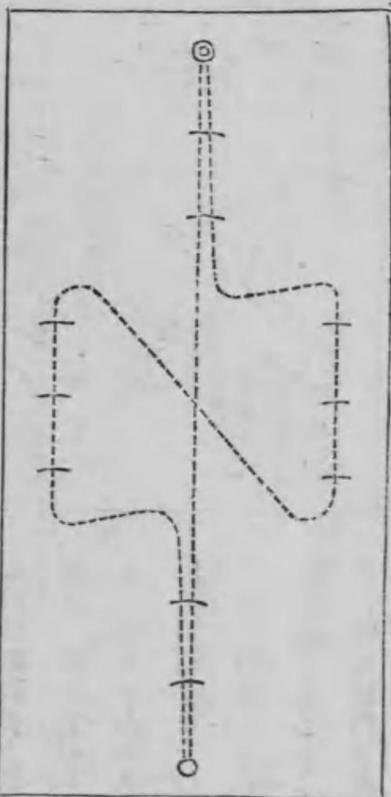
に折り曲げたのか、又は小鐵板に針金を着けて鐵門を掛けるに便なる様にする。而して板上には木槌木球と同色の彩色を施して或演技者の木球の通過すべき鐵門にかけて人に知らしめるものである。

二、準備

十人の競技者及び審判者一名を要す。

先づ十人を二組に分ちて紅白となし、ジャンケンによりて先きに始むべき順を定む、即ち勝ちたるものは標旗の上部に巻ける色と同色の木槌木球を取る、次に負けたる組の一人先に勝ちたる組の一人の如く一人宛入れ違へとなる、競技場は平坦にして廣濶なる土地を選び、而して場内適當の處に二本の標旗及び八個乃至十個の鐵門を立てる、其法が種々あるから左に鐵門と鐵門の配置法を示す、但し鐵門と鐵門との距離は隨意である、而し





て先發者は起程標の振方に木球を置いて用意する。

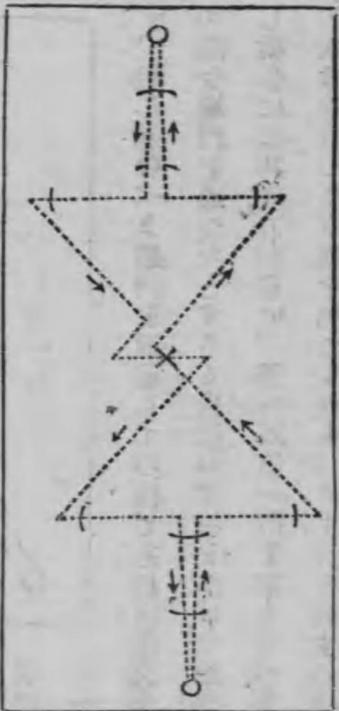
三、方法

用意が整はゞ其持ちたる木槌を以て第一門乃至、數門を通過せしむべく打つ、(但し木槌の下部を握つてはな

らぬ)かくして一門を無事に通過するに於ては引き續き尙一回打つことを得(若し一打にて二門又は數門を通過するときは其數丈打ち續けることを得)然れども通過せざるに於ては其木球を元の所に返し、敵側の者の標柱の者色順によりて順次代つて打つべし。斯くして兩組交互出で、行ひ所定の鐵門を潜らせ、回歸標を一周して又所定の歸路を経て早く組全體が起程標の處に歸つた組を勝とする。

競技規則

(1)一人の打ちたる木球が味方の木球に當りたる時は、恰も一打にて二門を通過せしめし程

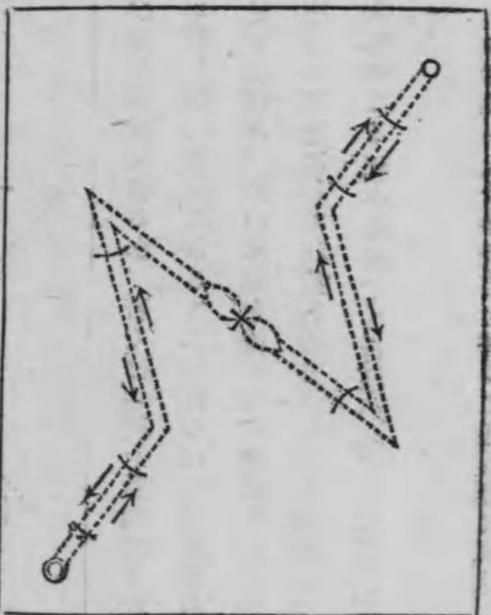


の効力がある、即ち二回打つ事を得、かゝる時は自己の木球を二回打つか、又は己れの木球を足にて踏み先づ味方の木球を能ふ丈打ち送つて鐵門を潜らせて後自己の木球を打つがよい、此事たる競技者の随意に任す、而し打ち續くべき權能は二回を越えてはならぬ、即ち一回打ち送りたるが再

び他の木球に當るか、若くば鐵門を數個潜りたりとするも尙其權利の重なるものではない(2)若し敵の木球に當るも二回打つべき權利を有す、此場合には敵を苦める爲自己の木球を足下に踏み、敵の木球を遠く打ち飛ばして後尙一回自己の木球を打つて送るべし、之又競技者の随意にして利益ある方法を探るがよい。

(3)如何なる場合に於ても自己が踏んだ木球が足より外れ出た時は再び打つべき權利がない。

(4)味方の一人最終の門を潜つて起程標に木球をあてればよろしい場合に味方の遅れてゐる



者を助けやうとすれば、球を標にあてないで自由なる運動を行ひ、以て敵の木球に妨害を加へるがよい、之をローバーと云ふ、此場合に於て二回打ち続けられべき権利は他球にあてたる時のみである然れども又遠く起程標を隔たるも危険あるものであるから味方の既に揃つた時分には標旗に向つて引上げる。

(5) 一回中てた木球に再び中てることを得ず、但し進むべき鐵門を通過しての後であれば差支がない。

(6) 假令鐵門を通つたとするも自己の記票をかけた鐵門でないか、又順序を逐はずして通りし場合には其効力がない、例へば第一門を潜らすべきに第二門を潜りたる時の様である。

(7) 木球を打つは木槌を隔てて打ち、必ず音の發する様にすがよい、然らずして押すが如きは無効である。

以上は團體的競技である、若し個人的に行ふ場合には只敵の妨害を加ふるのみであつて、團體の如く援助し合ふが如き事がなす、其他の法則は同じ。

四、備考

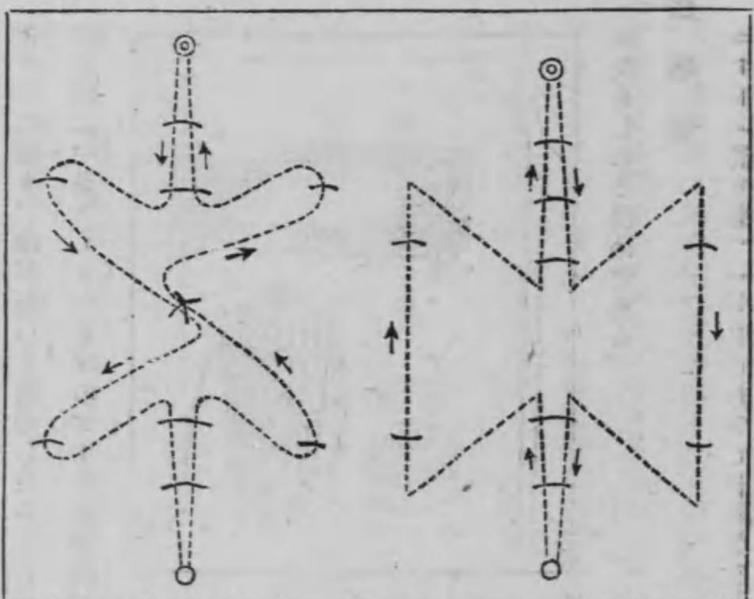
以上は團體的競技である、若し個人的に行ふ場合には只敵の妨害を加ふるのみであつて、團體の如く援助し合ふが如き事がなす、其他の法則は同じ。

第七章 ホツケイ

一、用具

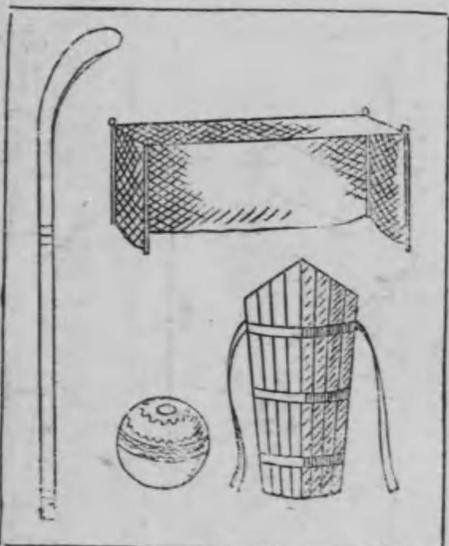
ホツケイ スチツク(杖) 藤又は柳、若くは堅材にて造りし小薙刀形にして尖端彎曲したる長さ三尺餘の杖である、これを演技者の數丈備へる。

ポトル一個、竹の根を細くして練り合はせ、それに革を被せたものである、但しクソツケ



ツト用のボールを代用しても可い。

ネット二張り、球が正しく通過したるか否やを見分ける爲めに、圖の如く箱形に作りたる網を用ふ、又フットボールのゴールを使用しても可い。



バット(脛當)、武具の脛當の如きものであつて木片、又は竹を編みて造る、之は危険を避ける爲めの物であるから、各人に之を使用せなければならぬ。

旗、演技場に建て、境を明らかにする爲めに用ふるものであつて、其所屬技場によつて其色を異にする。

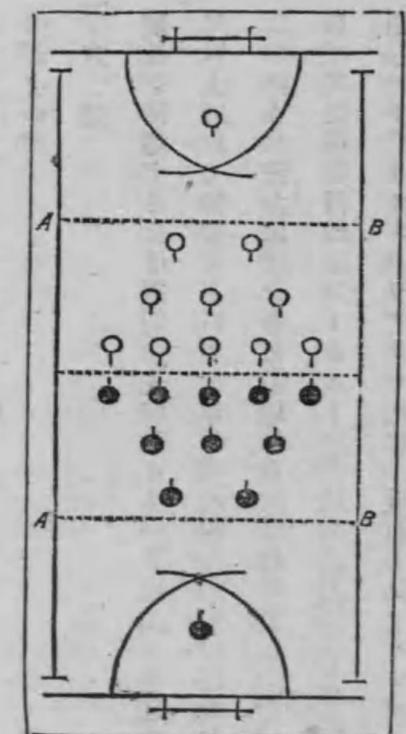
其他尙標章を要す、之敵味方の識別を一目瞭

然たらしめる爲めである。

二、準備

コート(競技場) 一平坦であつて廣潤なる土地を適當となす、其設計は圖の如く石灰など

の如きものを撒布して、長方形に劃す、其の縦線をサイドラインと云つて三百間、横線ゴールラインと云つて百五十間となし、又兩ゴールラインによりて七十五間の處即ち中央を横斷する線をセンターラインと云ふ、又センターラインと兩ゴールラインの中間を横斷するABの線を設く、故に各區劃は平等の廣さであつて全く四分せられてたものである。



材三本を用ひて六七尺の高さに造れば可い。

演技者は兩組合して二十二名、即ち一組十一名宛にして外に審判者及び書記を要す、而して其排列法は先頭隊五名と中央隊三名、後尾隊二名、及ゴール守一名を以て一組となす、

これが敵手も同じく一組を編成する。但し各隊の人員は適宜に増減することがあつてもゴール守備隊は増減することを得ぬ。

各演技者は杖一本宛持つ、杖は薙刀状の凸面の方を用ふることなく、平面の方にて球を打つがよい。

三、方法

競技を開始するには兩組の先頭隊より一人宛出て相對向し、杖の尖端を交叉し、球より一尺以上離れて輕撃しそれより球の一尺程左右側の地上を撃ち、同時に一二三と唱へて三呼目の終りに速かに球を各自敵地の方向に打ち出し、引き續いて競技を始めるものである、而して其終局の目的はフットボールの如く、敵のゴールにボールを打ち込むにあるのである。但しストライキングサークル内に一度打ち込まないボールは假令ゴール内に打ち込んでも無効である、打つたボールのサイドライン外に逸した時は反對の組の一人之を拾ひ來つて其逸出したる點よりサイドラインに直角に場内に轉入する、此時の打ち込み方は膝の高さより低き邊りを程度とする規則であるから、若し高く投げ入れたるか乃至敵のゴールの方向に對つて投げ入れたる場合があつたならば、再びボールを舊位置に持ち歸へり其點より

七八歩位離れたる地に置いて、敵の爲めに自由打を許すがよい。

四、競技規則

コーナーヒットの權を與へられた組は皆ストライキングサークル線に並び敵組は自己のゴールラインの後方、即ち競技場外に一直線に並び、コーナーヒット、の權を有せる組の一人を出して之を行ふ。

其方法はサイドラインの兩端何れにても便利なる隅より兩勢相對向する中間にピットせしめるを云ふのである、但しピットせられたる迄は兩勢少しも動かずど雖一度杖が振れた時はゴールラインの後方に並んだ敵手は直ちに場内に躍り入つて、球のゴールに入らないやうに防ぐものである。

(2) フリーヒット、とは自由打撃をなすことであつて、右の場合に與へられる權利である、

(かゝる場合には其の敵手なるもの、其打球手を距るも十歩以内に近寄つてはならぬ。

(イ) ボールを打つ時に杖を肩より高く上げた時(此時は其ボールを打ちし他點にボールを運びて行ふ)

(ロ) サイドラインより逸したボールを入れるに膝より高きか、又は敵のゴールに向つて投

げた時（此時はボールの逸した點よりも七八歩場内に入つたる點にて行ふ）

（ハ）杖の背面なる凸面部にてボールを受けた場合、及び足を以て故意に蹴送りし時、（此時は他點に於て行ふ）但し足にて止めたるは此限りではない。

（ニ）オッフサイドの時は其のボールを右側方のサイドラインの中央點まで運びて其處よりゴールに向つて行ふことを得、而してオッフサイドの權利を得るはゴールキーパーの外二人以上敵手が其ゴールを守備せない時、即ち虚を衝くの不正をなしたる場合である。而してストライキングサークル内の中心よりゴールに近い所に於て前條のことをなした時は其ゴールを去る七歩の處より此制裁を斷行すること得。

（三）ゴールキーパーは毎にストライキングサークル内に在つてゴールを守備すべきの任務あるものであるけれども、若し線外に進撃するの利ある時は、出入自在である、然れどもゴールキーパーはストライキングサークル内にあつては手足を自在に使用してボールを處置するけれども、ストライキングサークル以外に於ては之を許さぬ。

（四）スティック又は身體を以て敵の動作を妨害することを禁ず。

（五）スティックを持つてボールを前方に押送り又は掻寄せ等してはならぬ。

（六）ボール一度ゴール内に入るも地上に落ちない内に打ち返せば敗北とはならぬのである。

五、備考

元來本種の遊技たるや之を正式に行ふ時は正式なる用具及び規律を要するものである、然れども此處に述べたのは、一般に初等學校に於て行ふべく説明したのであるから諸君は其の心して讀まれたい。

第八章 競技的バスケットボール

予が將に述べやうとする、此バスケットボール競技とは、如何なるものであるかといふに、從來我國の小學校か女學校などで行はれて居る。普通の團體遊戯としてのその如く簡單な方法で多人數同時に行ふものではなくて、比較的小數の一定の制限ある人數で、簡單な制則の下に非常な複雑な計畫が、活潑敏捷及技術的動作を以て競争する所の高等遊戯に屬するところの遊技である。

一 沿革

此遊技が我國に輸入されたのは、丁度何時の頃であるか明でないが、兎に角米國流の瑞典式の女子體操が輸入されてからの後の事であるから、極めて最近の事である、此遊技が我國へ輸入された母國は何國であるかといへば、勿論米國であるが、其米國では何時頃からは居たかと云へば、之れも極最近の事である。

今を去ること、約廿四年前西曆一千八百九十二年の事であつた、北米合衆國、コナチエーセツ州のスプリングフィールド市にある、基督教青年團體の體育學校 (Youngmen's Christian association training school) の教師 James Naismith と五人が或一日、其校の屋内體操の壁に一對の桃籠を釘付けにして、生徒中の有志者數人をして、此籠の中にフットボールを投げ入れる遊技をさせて見た、所が意外にも面白いので其後追々行はれた、従つて其附近の他の學校にも傳はつて流行した、先づバスケットボール遊技の産聲を上げた時の有様は以上の様なことであつたのだ、然るに其後追々流行して各處に傳播したとして男女を問はず、大小人の仲間にあつて行はれた、就中殊に女子體操學校の教師の多數に熱心なる歡迎を受けて其利益價值を賞揚され、用具規則、方法等も研究されて遂に今日の如く發達して來たのである。

二 バスケットボール遊技は何故に女子に歡迎されるか

バスケットボール遊技は何故に女子に歡迎されるか

米國は運動の盛な國である殊に學校は男女を問はず遊戯好きであるからバスケットボール競争も男女學生間に盛に行はれて居る、併し少しでもやさし味のある遊戯は大概女學生間に流行するのである。彼のボストンのジョーヂ、ライト氏によりて考案されたロケットニス遊技の如きも女學生間に歡迎されて盛に行はれて居るが、男子も亦やつて居るが、先づ時代から言へば妹ともいふべき、後に生れてた此のバスケットボール遊技も男子の行ふフットボールと同じ用具ではあるが彼れ程の危険も亂暴もなく又ベースボール遊技は、技術を修めて相當の競技者となるまでには長時間を要するから、其れが爲め練習中は中々興味を起すに到らずして中途で失望するといふ風になる缺點があるのに此遊技には其れもなく、又テニス遊技に比すれば技術は簡短であるし、同時に比較的多人數行はれるといふ便利もあるもので一般に歡迎されたのであるが前にも述べたる如く、女子體操學校の教師等は單に之れ等の理由のみでなく、之れが女子の身體に適當な鍛鍊を與へ又精神にも良好な訓練を與へ得るといふことを定めて、之れを教授獎勵したのである。又何事でも男子以上やりたがる米國女子に取つて其好む遊技の中に男子のフットボール、ベースボールに對抗する程の物があれば盛にマツチゲームを團體でやつて見たいが適當なものはなく、夫れかと云つてまさかに、ベースボ

ールやフットボールのチャンにもなれないし、遺憾に思ふて居た所へ之れに匹敵すべき、遊技が出来たので一つは歡迎熱流行熱を高めて速に全國に播まつたのであらうと予は推測するのである。以上の理由が此遊技をして男子専有の者とならしめずして女子專屬のものとならしめたのであると思ふ。

三 米國女學生間に於ける現今流行の概況

米國は前にも述べた様に運動の盛な國殊に遊技を好むことは老幼男女の別のない國柄であるから學校には勿論廣大な運動場を有して居るが各地を通して數百を以て指を屈すべき公設的の運動場がある、バスケット遊技が發明されて以來、日に月に工夫考案されて出來上つたコートが、此れ等の公設遊技場や學校の運動場に一箇處づ、設けられて居らぬ所はないとの事だ、元來此遊技は、其起源に遡つて考へて見ても屋内體操場から生れた者であるが、成長發達に連れて何時までも室内に閉ぢ込められては居ないで何時の間にか戶外の遊技となつて、今では立派なコートの型式も定まつて、前に述べた通り全國幾百幾千の學校の運動場や公設運動場内の一角一定の型式を供へたコートを見るやうになつたのである、そして此等の學校の中で最も先して學校の體育的運動の一として採用したのはスミス大學の女子部であ

米國女學生間に於ける現今流行の概況

る、其後ウイコンシン、チカゴ、ミネソダ、ネブラスカ等の大學の女子部に採用した、併し此等の學校に次いで各地の師範學校女子部中學校女子部專門學校等の女子部等も採用して今では各々立派なチャンピオンも出來て、盛な學級試合對校試合を、やるやうになつたとの事である、同時に公設の遊技場に於ても小女等によりて盛に團隊競争が行はれて居る。

四 我國に於けるバスケットボール技の現状及び吾人の希望

我國に於て此技の行はるやうになつのは極最近の事であるし、又國情を異にして居るから彼れの如く急速の發達は見ることは出來なかつたが流行といふことだけは中々に早かつた様である。各地の高等女學校は勿論少し大都會の小學校に於ては、不完全ながらも此用具を備へて相當に行はれて居るやうである。併し正しき規則通りのコートを常設して彼のテニスに於ける如く行はれて居る處は、極めて少いかと思ふのである、そこで予は將來此遊技に對して次の様な希望を以て居るのである。

予はバスケットボール競技は日本の女學生にも最も好く適した遊技であるから、是非之れを讀者諸君に勤めて小學校の上級の女生や高等女學校、女子師範學校其他の中等程度の學校の競技的遊技の一つとしてテニス以上に勵行せられるやうなることを欲するのであるとい

我國に於けるバスケットボール技の現状及び吾人の希望

つて何も米國の體操教師をまねたりするのでもなく又米國の女學生の様に日本女子をもあらせたいといふのではない。由來日本人は西洋人に比べると萬事が不規則であるといふことであるが、其れは生活の状況から影響して居るものが大部分を占めて居るやうであるから急に之れが外面丈け改良しやうとしても到底其れは無理な注文であるが併し教育者たるものは只無理であるといつて之れを捨てて置くわけの者では無からうと思ふのである。

自分の研究しつゝある方面の仕事と何等かの關係に於て其の不良習慣の幾部分かでも改良することを計るのが、其責務であらうかと思ふのである。由來不規律の國民である爲めか、兒童が遊戯をするに當つては少しでも制裁的束縛或は規則等を設けると、甚しく窮屈がり夫れ等の者を徹退されん事を希望するものが多いやうである、殊に女生徒に於て其傾向を多く認むるのである。そしてそれ等に限つて遊戯の最中になると混亂を來す互に甚しく身勝手亂暴をやつて遂に爭論に陥つて猶規則の無いのを希望するといふ風を屢々見受ける事である。此の如き者にこそ規則的團體遊技を課する必要があるのであるからして果して前に陳べたるが如き事實を眞なりとすれば、バスケットボールゲームの如き、規則ありて併も興味多き遊技によりて此の弊風的一端でも矯正することを計れば好いでは無いであらうか、且つ同時に身

體をも鍛鍊するの効も少なくないのであるから現今のテニスコートを常設して何時でも思ふとき競技し得ると同様に常設の戶外バラケットボールコートを作つて置いて其方法を教授獎勵されたいと思ふのである、コートを常設するからといつて、テニスコート程の費用か、其れ以下で出來て(用具とも一切)併かもテニス程技術は困難でなく、同時に多人數行ひ得るのである。以上何れの點から見ても之れが實行を我國人に勸告する價值があるものと思ふのである。故に此遊技の設備方法を説明せんとする前に當つて一言述べて置く次第である。

いで是れより所謂試合に於て用ひらるゝ、正式のものに付きて説べやう。

五 技場の構造

- 一、コート 長さ八十尺幅四十尺の長方形。其長さの方を三等分する。何れも常設には、テニスコートの如く木を埋めて置くがよい、繩を引いたのは足にかゝつていかぬ。
- 二、バスケット 又はゴール、コートの兩端がベイスラインの中央に柱を樹て、地上十尺位の所に直径二尺五寸乃至二尺八寸の鐵輪に網を付けた、バスケットを着け、猶其後にボール避けとして六尺平方の枠を金網で張り詰めたものを柱の上端に付ける。

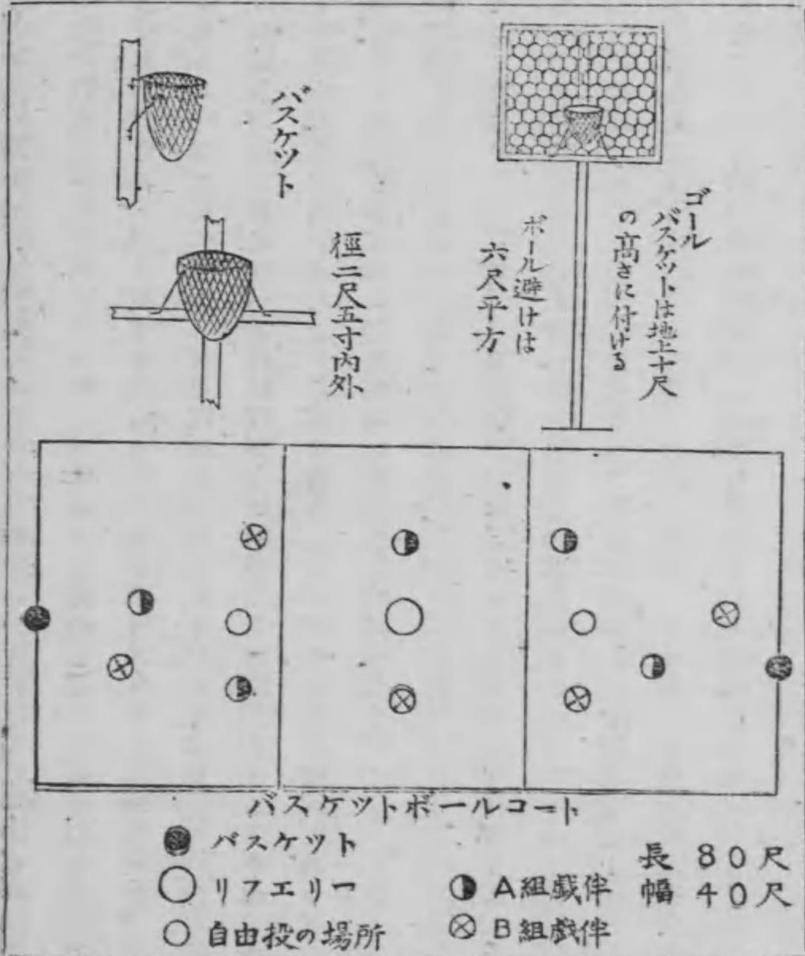
六 用具

ボール ボールはバスケットボールを用ふるも舊式のフットボールを用ふるもよし。

組の編成
及技の
配置と
任務

七 組の編成及技の配置と其任務

一組の人員は五人であつて此五人の者が二組互に競



争するのである、場合によると九人を以て試合ふこともあるが、餘り人数が多いと返つて混雑して充分の技倆も發揮することが出来ない。又審判も頗る困難となる。

五人の一組は、センター一人、ゴールスローアー(一名フォワード)二人、ガード二人よりなるのである。

一、センター Center(中央に置かれたるもの)は技場の兩組のセンターが一人づつ都合二人居て互にボールを味方のフォワードに投げ送ること、互に敵方のセンターに捕らせないやうに立働くのである。又場合によりてはバスケットへ投げ入れる。

二、フォワード (ゴールスローアー) Forward goal thrower. (前衛又は決勝標に投げ込むもの)之れは自分方のゴールを守るもので、二人は共同の任務を以て互に相助け合ふのである、そして敵方の二人のガードにボールを奪れないやうにすること、自分方のバスケット内にボールを投げ入る事を務めるのである。

三、ガード Guard(防禦するもの)之れは敵方のフォワードと同じ区域内に居て敵のゴールすることを妨害し且つ其のボールを奪ふて味方のセンターに送ること、又場合によれば、味方のフォワードに投げ送ることの任務を持って居る。

四、キャプテイン Captain 之れは兩組員の中にて一人づゝ選み置きて、其組員は萬事これの指揮に従ふて活動するのである。

演技開始

八 演技開始

ボールは先づリフエリーによりて中央の區劃の空中高く投げ上げられる、此時センターの二人によりて先づ競争を開始されて漸次全局面に向ふて競争は推移するのである。一旦ゴールしたる後、休息後等の開始時にも同様である。

競争中、技場の内外を問はず、丁度同時に異りたる組の二人によりて捕へられて、其れが何れの所有であるとも判定し難き場合には、リフエリーは其場所に於て空中に投げ上げ、更にボールを取り直させる。キャプテイン又はリフエリーによりてタイムの宣言されたる時は再びプレーの號令あるまで、一時競争を中止する、タイムキーパーより、ハーフタイム(半時限)の信號ありしときも同様一時中止して十分間休息する、再びレディー(用意)にて其受持の位置に付きプレーを待つ。

競争の時

九 競争の時間

通例四十分間を十五分と十分と十五分との三つに分けて行ふのである、即ち初めの十五分

と後の十五分とが競技時間で中間の十分は休息時間である、此際、敵方とコートの交替を行ふこともある。

競争の目的

一〇 競争の目的

所定の時間に多く點を得た方が勝になるのである、即ち點取が目的である。

採點法

一一 採點法

一回ボールを籠に入れる毎に二點とする、自由投の時は一點とするものである、最後の點數が若しタイ (Tie) 即ち同點であつたならば、引續き其の何れかと二點を取り越すまで競争させるものである。

反則

一二 反則

- 次の各様に當るときは、フワウル Foul にして敵に自由投げの特權を與へねばならぬ。
- 一、各々の技伴の受持區域内に立入ること。
- 二、ボールを以て、歩むこと、走りまはること。
- 三、ボールを敵の手中から叩き落したり又敵の身體に手を觸れたり、衝突したりすること。
- 四、ボールを三秒間より長く持つて居ること。

一三 自由投



敵に反則ある毎に競技は中止され其罰として反則したる組からボールを敵の手に渡す、敵のフオーワードは、柱から五十歩の距離に、此爲めに設けられて居る自由投の場所から、敵方から何等の障碍をも受けなくて、ボールをゴール内に投げ込むの特権を得るのである。此自由投が成功すれば其組は一點を得るのである。此時にはボールは再び、役員によりてセンターに投げ渡されて更に競争を開始するのである。若し失敗してボールが或一點に落下したならば、其場所から、直ちに連続して競争に移るのである。

一四 役員及其任務

平常の競争に於ては、只一人の役員にて、諸事を處理すれば澤山であるが、試合競争となると嚴

密正確にやらなければならないから、可なり多くの人員を要する。

- 一、リフエリー (Referee.) 常に技場内中央の位置に居り競技を監督し、演技を開始し、争點を解決する。
- 二、アンバイアー (Umpire.) 競技動作及結果を判断して之れに審判の語を與へる。
- 三、タイム、キーパー (Time-keeper.) 時間係であるから、時の経過を嚴密に報告する。
- 四、ラインズメン (Linesmen.) 之れは境界線を踏越へて他の領域に入るものを監視して居るもので二人以上を要する。
- 五、スコアラース (Scorers) 之れはアンバイアーの判語を開き、スコアブックに得點を記入して計算するもの。

前にも豫め陳べ置きたる如く以上は、マッチゲームの時の施設であるが練習時に於ては之等を斟酌して随時定めてもよい、又大いに研究して日本式のもの工夫考案してもよい。

一五 練習に於ける監督指導法

監督指導者は、種々の事柄に付いて深き注意と、懇篤なる指導をせねば決して競技者のみで其技術を進歩させることは出来ない。競技者が興味を起すのは、其技術が進歩して思ふ様

に立ち振舞ふことが出来るやうになつてからである。故に監督指導の任に當るものは中々萬事に氣を配り、勞力を辭せずして充分に盡力せねばならぬ。

一、競技者の體質と運動量に付いて注意し過度に陥らぬ程度に於て練習を奨励せねば、忽ち生理的に不結果を來すことを忘れてはならぬ。

二、季節について適當な注意を怠らないやうにせねばならぬ。

三、競技者の技量の巧拙に注意して、適當な指導をせねばならぬ、例へば競技者中には先天的に巧拙のあるものである、巧妙な者はやゝもすると其天才に漫じて、其の初めに於ける如き度を以て進歩しないで、反つて反比的の傾向を生ずるものである、之れに反して拙劣な者が着實熱心に練習して、遂に組中の有力者と仰がれる様になることもあるものである。

四、競争の時間の長短と練習の度とを斟酌せねばならぬ。初め未熟の中は短時間の競争をさせ漸次熟するに従つて長時間にし、最後にマッチゲームの時間を競争し得るやうに漸進的に鍛鍊して行かねばならぬ。

それには假令短時間の競争でも、總ての動作を活潑敏捷に立まはらせて、決して愚

圖／＼することのないやうに監督し、若し殊更遲緩なる動作を度々するものあらば技場を去らせて時々見學さすがい。

五、拙劣、不正等の動作を認められた時には、直ちに其競争を中止して、其行動について矯正模範を與へ懇篤に指導せねばならぬ、又場合によりては、告諭が批評によりて指導する爲めに、技場内を走り廻はらねばならぬ、斯くして熱狂せる競技者の間を奔走して指導するには、競技者の意識に徹底するやうに充分なる大聲で言はねば無効であるから自然技場内は喧噪になり、又此喧噪な動作が競技者に模倣されて、騒擾しい習慣を得させるといふ、虞れはあるが、此騒擾しくなりかけたとき、即ち競技者間に幾分か競技の批評をなし得る者の出來た微候なので興味も是れより起りかけるといふ時であるので動作も漸く活氣を帯ぶるやうになるの時期であるのだから俄に驚いて彼等の喧噪を矯正しやうとするのはよろしくない。漸次其技に熟達すれば自然喧噪は止んで、目顔、表情的暗號等によつて互に味方の聯絡を保つやうになつて反つて競争中は頗る靜肅を保たれるやうになるものである。又其の様な風に養成するのである。そして此走りながら與へる具體的の指導は、競技者に取りては少なからざる利益のあるものである。

るから指導上最も必要な事である。

六、競技者には各得手不得手があり又好き嫌ひもある事であるから、自然自分の上手な好む、役割を務めたがり其れ計り練習したがるものであるが其れに任かせないで初めは強いても各々役前を練習させて置く必要があるのである、殊にゴール投げの練習は、最も多くさせて置かねばならぬ事である、此ゴール投の練習はフワウルライン、即ちフワウルのあつたとき自由投げをする場所から順次反復行はせるのである。(自由の場所を一名フワウルラインと云ふ)。

七、フワウルは厳密に鑒定し、公平に處断して一步も假借してはならぬ、只に兩組の利害に關するのみでなく一般の規律を保持する上に多大の關係があるのである。

八、競技者には極めて巧妙な、頗る迅速な且つ強力な競争を練習することを努めてさせるがよいのである、亂暴な不規律な行動は一般に未熟者によりて演ぜられるものである、未熟者はかくせねば到底勝つの見込がないから自然に自ら亂れるものである。

一六 各競技者の競争上の注意及適任者

イ、センター (The Center)

各競技者の競争上の注意及適任者

センターは技場の中央の區域を占領して居て自分の組の技伴にあらゆる便宜と補助とを與へねばならぬのであるから、センターとなる者は能く防禦すること、敵を巧に避けること、能く跳ぶこと等を敏速にし其上正確な判断をなし得て機を誤らぬやうにする等各方面の熟達した者がよいのである。又組中で冷靜で沈着なものがよいのである。

普通センターには身長の高い者を選出するが、其れはゲームの開始の第一番にボールを占領する上に利益があり、競争中には身長を利用して、相手の身長の低い時に頭越しにボールを投げ得るの便利があるからである。併し一般の場合には其れでよいのであるが、相手の如何によつては反つて身長が短いものが利益を得て、長大な敵のセンターをして働かせないやうにするものもあるのであるから一概にはいはれない。以上はセンターとして一般に要求される資格である。

センターの競技を制限する一般の心得ともいふべきものは次の如き物である。

- 一、ボールが敵方の手中にあるときは敵のセンターに密接して居て、味方から送つて來るボールを奪ふのである、之に反して味方の手中にあるときには敵のセンターに密接されないやうに離れて居て、敵にボールを奪はれないやうに受取らねばならぬ。

二、若し味方のガードがボールを持って居るときには直ちに味方のフォワードの近傍に移つて其ボールを受取つて、フォワードに送り渡すのである。決して無暗にボールに近づいて、フォワードにボールの間を遮断されてはならぬ。

三、センターとなつた者は常にフォワード、ガードの補助たることを専らとして、決して自分勝手の行動をしたり又他の者から補助を受けるやうなど思ふてはならぬ。以上の心得を能く吞込んでやれば大概のセンターには勝を得るのである。

センターは一般に受取つたボールをなる可く早く投げ渡して、敵のガードが味方のフォワードを備へるの隙間なきやうにせねばならぬ、併し只無暗に早く投げ送るばかりでは何の益もなくなつて損を招くやうな事があるから、能く競争の進行を考へ、味方の位置距離等を見定めてからかゝらねばならぬ、又味方のガードがボールを手にするを認めたらば、迅速に自分の位置を定めてボールを受取る構へとして待つのである、又ガードの位置が適當な距離と認めたらば、直ちに走つて味方のフォワードの側の境界線の近傍に走つて、ガードからボールを受取つて、直ちに向を轉じて丁度ゴールするのに適當な位置に待ち構へて居る味方のフォワードにボールを投げ送るやうにするのである。

又センターは、味方のフォワードが其領域の外側に出たボールを取りに出た場合には、自分は其方向に近き己の領域内に進んで、フォワードが位置を移るの必要上から一旦ボールを味方に投げ送つて其間に位置を移つて、再び投げ返さすやうに作戦する、其補助を巧みにやらねばならぬ、故に受取り且つ再び返し渡すのに好適の位置を早く選定して其位置に着く上をも注意して居ねばならぬ。

若し敵のガードが、其センター、或はフォワードにボールを投げ送ると見たならば、其方面を見定めると同時に敏速に走せ行きて、敵のセンターを敗らねばならぬ。

センターは以上の外、技術的方面に於て特に練習すべき事は遠距離からゴールを投げ入れることを屢々練習して置く必要がある、それは、若し敵のガードが巧に味方のフォワードを遮断して到底ボールを送り渡すことの望みなきやうな場合に陥ることがある、其場合にはセンターが直接にゴール投げをしても、有効であるのだから其の用心に練習をして置かねばならぬので、又其様な場合が度々あるのである。

之を要するに理想的のセンターともいふべき者は、最も活潑で攻撃的で、しかも組中でも剛情者が一番適當なのである。

ロ、ガード (The Guard)

此ガードの役も此競技中の重要な役柄なのである、若しガードが着實熱心正確に其任務を盡すことが出来たならば、敵方のフォワードは實に苦戦に陥つて、中々點を得ることは出来ないのである、敵に點を採り得させなかつたならば味方に九分の強味があるので、敵を破ること容易になつて来るのである。此の様にガードは重要な任務を帯びて居るだけそれだけ其動作は骨が折れ又心に油断は出来ないのである、然るに此ガードの役はセンターや、フォワードの様に派出でなく、始終味方の補助側にのみ立働いて居なければならぬから、丁度縁の下の力持で割の好くない役柄であるに、少しでも油断をすると直ちに敵のフォワードにゴールをされるやうになつて、組の者には非難され、見物人には笑はれ、幸に無難に立働いても其は當然であるといふ位の讃辭を受くに過ないから、虚榮心に満ちて居る少女等の間には一般に歓迎されぬのである。

ガードは一瞬間でも敵のフォワードの動作から目を離してはならぬ、同時に又其心の内に「防禦して敵を破る」といふことを忘れてはならぬ。又注視と注意とによりて敵の次の行動を豫想して、何時も之れに先んじて、立廻り充分フォワードを苦しめなければいけない。

決して敵の行動を見て然る後驚いて、之に備へんとして其跡ばかり追ふて居るやうなことはいけないのである。一般の場合に於けるガードの心得は次の如きものである。

一、常にボールの位置と、敵の中間に居るやうにしてボールを敵に行くまでに中途にて奪ふやうに努めること。

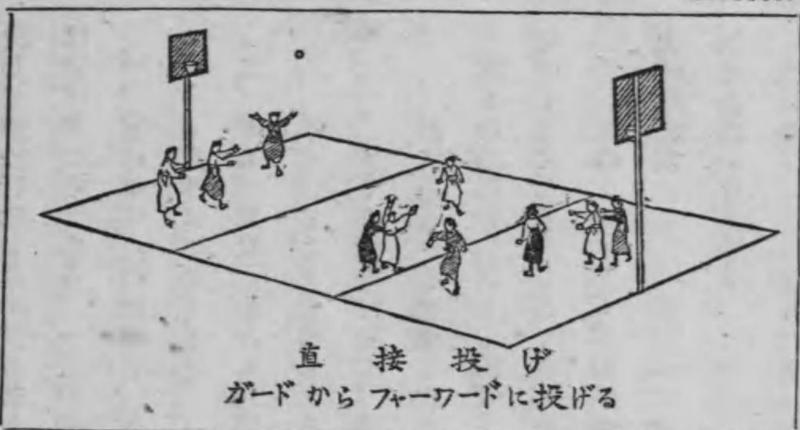
二、ボールを取ること大切な事であるが其れのみ熱注せず敵の妨害としてボールを投げ入れることを誤らせるやうにすることを忘れてはならぬ。

多くの場合に於て、勝敗の数は、ボールを捕ることのみに熱注して、敵の計畫の何れにあるかを想像し得ないガードによりて決せられるものである。

以上の心得を服膺して練習すれば、往々敵方に稀にボールを觸れしめるといふ様な熟達したガードになり得るのである、其様なのが實に立派なガードと稱すべきであるのだ。

若し敵のフォワードの手中にボールがあるときには反則を構成せぬ程度に於て、出来るだけ敵に密接して、若しボールを投げられたならば右手を高く挙げ左手は必ず之を少し低くして身體の中心を失ふて轉倒せる用意をしてボールの方向に突進するのである。

老練なフォワードは屢々投渡すまねをしたり、又ボールを高く投げて恰もゴールせんと



する態度を示して、ガードを欺くものである、されど其れが欺くのであるか眞の動作であるかと咄嗟の間に見分けるのが、又熟練なガードの特色であるのだ。

ガードは二つの任務を持つて居ることを忘れてはならぬ。一は敵のゴールすることを妨ぐ事と一はボールを味方のセンターかフォワードかに給與することである。

ガードの技術の要項としてセンターの如く遠距離投げに巧でなくてはならぬ、其れはセンターのとは少し目的を異にして居るけれども其技術としては同様である、若しセンターか敵のセンターに巧に妨げられて居て兎てもガードからボールを受け止める事が出来難いと認たときには、咄嗟に方向を變じ、直ちに味方のフォワードに投げ渡さねばならぬ、此場合は中々度々生するのである、其練習法の一としてガードは平時互に抜場の兩端に立つてボールの遠投

げを練習するがよい、此際に一方にガード一方にフォワードが居てすれば一層好い練習になるのである、此の後の場合には、フォワードは同時にゴールすることの練習をなし得ることを忘れてはならぬ。即ち先づガードから始めると假定して次はフォワードに送り、フォワードに其フォワードは之れとゴールして再び最初のガードに返すといふ風に四人にて絶へず練習するのである。

ガードは其役柄から云へば極めて困難な餘り派出でない役前であるが、バスケットボールゲームの中樞ともいふべき重要な地位を占めて居るもので、良好なセンターやフォワードを有して居るよりは熟練したガードを有して居ることは其組に取りて頗る幸福であるので、ガードが眞に良好になつてゐると、センターもフォワードもボールを手にかかるとすらいふやうな目に會ふことがあるのである。

力が相當に強くつて氣分が堅固で、そして最も迅速に走るといふ敵方のフォワードと競争して決して負けを取らない所の速度と耐久力を以て居るやうなのがガードとして適するものである。

ハ、フォワード一名ゴールスローアー

フォワードは一名ゴールスローアーといふ、自分のゴールの領域に居て、ゴールスローをやるのが主要の任務であるのだ、此役前は最も愉快で最も派出である代りに其の責任も他の戲伴のやうに、間接的でなくして直接である、其成效不成功が直ちに組の運命となるのである。此役前をは遂行するには、其動作が極めて敏捷で心状は頗る沉着冷静で技術に熟達正確でなくてはならぬ、加ふるに敵のガードやセンター等よりも一層健脚で咄嗟の間に正確な組を定めてボールを早投げすることか上手でなくてはならぬ、ガードと競争するに當つては恰も猫が鼠を捕るときのやうに、頗る沈着な態度で充分な思慮を廻らし、機に臨みて果敢突進して、ガードをして茫然たらしめねばならぬのである。

其外にボールが如何に高く來ても如何に低く來ても之れを巧に捕へることが出來同時に其れをゴールすることも又は都合によりて他のフォワード或はセンターに投げ渡すことも上手でなくてはならぬ。故にフォワードたらんと欲するものは、組の他の戲伴よりも一層にボールの投方受方ゴールし方等を度々研究練習するの必要があるのである、例へば丈高き敵によりて防禦される時は若し跪坐してボールを受けたと假定して之に對し、敵が掩ひ掛つて高投を防ぐ場合には如何様にすべきか體側から、他の戲伴に送るべきか、又ゴールに投を試むべ

きか又不意に跳上つて敵の頭越しにゴールすべきかといふ風に工夫と研究と練習とをするのである、若し又運動服を用ひて居る場合には大股に踏開いて股間から後方に投げてゴールにするといふやうに離れ技もあるのである。フォワードは常に練習に當つてはボールを受け取ると直ちに之れを投げ出すことを練習せねばならぬ、其受けると投げるとの間は全く連續的に極めて圓滑に行ふて敵として乗ずるの機なからしむるやうにするのである。

又フォワードは、センターの補助を巧に利用することを研究せねばならぬ、即ちセンターの近くの境界線外に於てボールを拾ひ得たるときには、其位置を移動することは勿論嚴禁されて居り、若し之れを犯せばフウルとなるのであるから、其位置から一旦近くに備へて居る、技場内のセンターにボールを投げ渡して置いて直ちに歸つて場内に入り、適當の位置に於て再び之れを投げ返させて受取るといふ風に極めて咄嗟の間に極めて敏速にセンターを使役することに熟練して居なければならぬのである。

フォワード等は、相互に競技中に於ける、總ての姿勢態度と競争中に必要な各所の位置に於て研究するの必要がある、其方法として一般に其境界内に集つて相互にボールを送り合ひ、投げ合ふのである。又集合して其方法を論議して好結果を得るの道を計畫するのがよい。

良好なるフオーワードと稱せらるべき者は、不適當と認めたらば決してゴールをせぬ、そして其時には味方にボールを投げ渡すか、又はボールを少しづつ突き轉ばしつゝ適當の位置まで前進する。(フットボール競争にては之をDribbleと呼びて足尖にて軽く蹴りながら敵を

避けて前進或は側進する)

フオーワードは又敵がボールを取つた時に、之れを投げ損なはずやうにして、なるべく自分の領域からボールを出さぬやうに巧みに防禦することを學んで置かねばならぬ。

これを要するに、理想的のフオーワードともいふ可き者は戲伴中で總ての技術動作に最も老練なものでなくてはならぬ。何となれば、一番花々しく目立つ役柄であるから、然かも單に好く捕へ好く投げ、好く渡すといふ丈でなく、自分の本務たる、ゴール投げをするには極めて冷



ゴール投げ

静極めて正確に、地上一丈の高處にあるバスケットを狙はねばならぬのであるから中々竝々の者では出來ないのである。

フオーワードに此遊戯に許可されて居るスリー、バウンセス (Three Bounces) (地上に三度撞きながら位置を移ること) 又はドリツブル (Dribble) をすることを練習して置かねばならぬ、そして之によつて競争の進行中必要に應じて鮮明な投げ込みをするのに適當と思ふ場所へ移行してボールを取るか否や敵に壓迫されぬ、先に投げ込むことの出來るやうに極めて迅速なゴール投げを確實になし得るまで練習して置かねばならぬ、之は又味方にボールを投げ送るときに敵のガードの追迫を避ける時にも、大に役に立つものである。

フオーワードは之等の方法により敵のガードを避け、又

は彼等を翻弄することを謀らねばならぬ。例へばスリーバウンセスの後直接に味方のガードに送り、そして敵の意外に思ふて茫然なる間に、再び中央を経てか、又は直接か、何れかの方法により、ゴールするに都合よき位置に行きて再び投げ返させて、敵をして狼狽殆んど手の付けやうなき様にしまふといふ風にやるのである。

以上は直ちに熟練したるチャンピオンの動作を概説したのであつて初學者には大に参考となり又コーチャーにも多少の参考となるものである。

一七 タイムウオーク Team-Work.

タイムウオークといふことは、組の人々が一人々々別々に自由に活動するといふことでなく全員が一團となり其心を一致させて、所謂團體的に一致協力して活動するといふ意味に外ならぬ。

一組といふものは、恰かも別々の部分が組立られて出来て居る一つの器械の様なものであつて、器械の箇々古有の運轉が合して一目的を遂行する如く一組の各員が互に連絡を保ち、共同一致して其任務に盡瘁せねば到底熟練の域に達することも出来ず、又敵と競争して成功は覺えないことである、殊にフォーワードは前にも述べた如く、一層自立つ派出な役前であ

タイム
ウオーク

るから稍ともすると、功名心に驅られて個人的動作に出で、無謀を企てたがる傾があつていけない、さういふことで失敗するのは見物人からは大に笑はれて撥斥され、組の者には憤怒と失望とを招くやうになり、敵には輕侮され、必勝を期することは困難となるのである。

タイムウオークを發達させやうとするには、豫て人選して組を作つて置き、其組内で毎度ボールの受け渡しを練習させるがよい、其爲めには、一組の人員を各々其受持の位置に配置して置き兩端の二人づゝから中央の一人のセンターを介して極めて迅速にボールの投げ渡しを練習させる、さうすると、ボールを投げることか受取ることの微細な要領を得ると同時に各員相互に其習癖性格を知合ふことが出来て互に、相協力する上に少からざる利益を得るのである。

又競争中秘密に味方同志の連絡を保つ暗號ともいふべきものは、比較的此遊戯には少い、其れは競技の性質がベースボールに於けるが如く緩急の變化に乏しくて通じて迅速と言としてあるから暗號を用ふる隙がないのである、併し開戦の最初に當つては、通例センターによりて豫め何等かの信號によりて（前に約束して置いて）ボールを是非取るとか、取り得られなかつたらば右方とか左方とか前方とか（突き落とすとか或は取り得たならばフォーワードの

何れの方向に投げるとか云ふうなことを豫示して置き味方をして先づ第一にゴールをさせて機先を制しやうとすることがある、併し其他の場合には用ひられるれば豫め約束して置いて用ひてよいが多くなる場合には恐らく用ふるの隙がないであらう。

前の競争上の注意を述べたときに各競技者が各遠投高投をする必要のあることを述べて置いたが之と同時に低投も又必要な事であつて、低投けが旨くきまると、中々妨碍し難いのである、低投けとはボールを腰の高さに保つて其高さを飛び行くやう一直線に強く投げ出すので中々速力が速かであるから、手頃の高さで妨碍し易いやうに見へて中々六ヶ敷いのである。

役員と戲伴

一八 役員と戲伴 Officials and players.

試合競争する前には注意して其役員になるべきものを選び置かなければならぬ。又養成指導せねばならぬ、役員となるには、遊戯の規則を全部明細に記憶して居て、審判、監視、計算等を迅速、正確、明瞭、公平に判決せねばならぬのである。そして戲伴と見物人が尊敬と満足とを以て迎へられるやうに其事務を完全に取扱はねばならぬ。

役員を養成するには、戲伴等が平素研究的競争をするときに指導し或は彼等に審判の練習をさせるのである。さうすれば、役員も戲伴も共に利益する處が多いのである。

バスケットボールゲームの審判は、其の進行が速かな丈けそれ丈困難が多いのである、故に役員たるものは、一層大なる注意を要することである、されば、一度役員として推選した者に對しては、競技者は極めて謹慎し、禮義を重んじ其審判に對しては決して一言も勝手に争論かましく言ふてはならぬ。

戲伴は競技家らしく、又淑女としての品格を重んじ、自分等の或る者の或る行動に對して與へられたる審判に付ては、不平を鳴らしたり、短氣な舉動を表出してはならぬ。若し其審判が不當であつても決して各自直談判をするのではない、充分慎重にして泰然たる態度を破つてはならぬ。若し役員の審判が誤つて居り又は不當であつた場合には豫め定めてある、組のキャプテンが之れが衝に當るので、キャプテンはタイムと呼びて一時競争を中止して置き、靜かに役員に向つて質議、抗議するのである、之れとても決して我意を通さむとして争論してはならない。アンパイア流に注意を與へることもあるし。又は單にキャプテンの發聲のみで有効と認めると約束することもある。

一九 被装につきて

此遊戯は女子專屬といふてもよいのであるから、服装のことについては特に注意を要する

被装につきて

東京帝國大學 文學士 桑田芳藏先生編著
文科助教授

ヴントの民族心理學

最新刊

著者は獨逸に於てヴントに親炙し、殊に民族心理學を専攻して歸來
東京帝國大學に於て専ら之が講述の任に當り、我邦ヴント學者の第
一人者として知らる。數年前よりヴント民族心理學の我學界に普及
せざるを遺憾とし講義の傍ら之が解説の筆を執られ拮据勤精而も一
語一句も苟もせざる細心を以て滿三年を費し漸く茲に本書を上梓し
て以て學界の渴望を充たさんとするに至れり。本書の出現は我心理
學史上に於ける一大貢獻たるのみならず一面に於て世界文化の眞意
義を闡明せる名著たるが故に政治家、社會學者、教育家、歴史家は
之に依らば多大の裨益を得べきや疑を容れず。

← 嚮肖氏トソヴ繪口 ←

十數百四數紙判菊
錢二十料送錢拾五圓二金價定

倫敦大學教育學教授 ジョン・アダムス氏原著
早稲田大學教育學教授 中島半次郎氏翻譯

教育學說の進化

菊判紙數七五〇頁
綿布綴箱入美本
定價金貳圓八十錢
送料金拾貳錢

聲名歐
米の讀
書界に
喧しき
良著述
の邦譯

本書は英國に於ける哲學史叢書の一として、千九百十二年に刊行せられたるもの
にして、英米の讀書界に在りては輒近の名著に數へられ居れり。筆を有史以前既に教
育學說の萌芽の存せしことを認め得ることより起し、繼いで希臘時代より中世紀に
互り、社會的及び個人的の教育目的に依り専門教育の施されたる論據を尋ね、進ん
で近世に入り、形式的陶冶說より始め、人文主義、實科主義、自然主義、理想主義
及び科學的機械觀の發展せし経路を明にし、其間著者の鋭利なる批評に依り、各學
說の長短を赤裸々に摘發すること共に、各學說間の關係を明にし、又各學說が教育學
說全體の進化に於て占むるの位置を究め、最後に今後の教育學說の發展し行くべき
方向を指摘せり教育學說の眞價を明にし、其歸趣を究めんとする者には絶好の參考
書たり譯文的確にして流暢平明、殆んど翻譯臭を帯びず十分に讀み答へある書なる
も難解にあらず。完全なる教育學史として江湖の精讀を望む。

米國 教育學博士 西山哲治先生著

自學 主義 各科教授原論

刊新

菊判四八〇頁 總洋布裝箱入 金貳圓五十錢 送料金十二錢

劃一主義の教育、形式一邊の教育に慄らす思ふ若き教師諸君よ。諸君の胸奥に漲つて居る澎湃たる新理想に呼應適合する教授原論を本書の中に讀んで頂きたい。現代教育界の通弊を剔抉して此程痛快を極めた書は絶無である。著者は多年海外にあつて斯學の蘊奥を極めた上、現に帝國小學校を經營して献身的努力をしてゐる人であるから、嶄新の學說と精細の經驗とを織つて片言隻句の末まで傾聽推稱に足る。

●ルツソー原著 三浦關造先生譯

刷縮 エミール

ボケット形 洋裝ソフト 八百數十頁 金壹圓五十錢 送料金八錢

ルツソーは近代思想の父也。而してエミールは其の代表的著作也。「自然に還れ」の一語を標榜して虚飾と情實に化石したる當年フロンソス社會の痼弊を剔抉し、新教育法を提唱す。幼時期、官覺的教育、智的的教育、道德宗教々々、女子教育の五項に分ちて、形式を小説に假りたれば興味津津々の裡に讀了し得べし。佛國大革命の赤色旗之に淵源して續り、アメリカ獨立の朝暉之に胚胎して著る。筆の力も亦偉ならずや。

■ ■ ■ 枯死せる教育方法及制度に對する 反抗と革命の焰々たる鋒火を見よ ■ ■ ■

音に遠く歐米の歴史を討究するに不及、彼が烈々噴火の如き眞精神は吾邦思想界にも大旋渦を捲起したり。「民約論」移植せられて明治初年の民権運動となり、「懺悔錄」の譯成りて文藝の新主張起りぬ。而して茲に本館「エミール」の譯を出版するや甚大なる歡迎を受けて教育界に強烈なる新刺激を與へしは、夙に識者の認知する所也。重版又重版、今や原版磨滅して新たに縮冊なりぬ。敢へて大方の讀書子にすむ。

吉原藤助・真行寺吉太郎・尼子止三先生共著

最新體操集成

【版三】菊判洋裝布綴
箱入八百三十一頁
定價金三圓八十錢
送料十六錢

のち成集の館文隆

時事新聞 批評

健全なる身體にのみ健全なる精神は宿る。果して然らば年々壯丁の體力の減少を見るは果して何事の意味するぞ。邦家千載の前途を思ふて寒心に堪えざるもこの實に此の一事に非ずや。此が原因をなすものは元より多々あるべしと雖も、各小中學校に於て西洋移入の體操をその儘に應用して邦人固有の體質に果して適するや否やを、嚴密に究めざる事も、その有力なる一原因ならざるはあらず。此の點に於て本書は充分なる考慮を費せし稀有の好述作なれば、當事者の必讀を望むや切也。

近來國民保健の聲漸く高きは慶賀すべき事なるも一方國民の體位の年々共に逆行するの微あるは痛惜に堪へず宜しく竿頭更に數歩を進めて歐米人を凌駕するの健體を健心を養成し以て他日に備ふ可き也。本書は斯る重大なる時機に際して小學兒童に體操を授くるの徒に向ひ其の最も必要とする所の科學的知識を興へんが爲に編まれたる者に續り交ぜ圖解を挿入して懇切に叙述し行ける所眞に集成の名に背かず。

文學士 青木武助先生 學曾院 助教授 二宮榮春先生共著

小學校歴史教授及教材の研究

小學校に於ける實際教授者に對し、不斷の參考と斷つて、參照の相も、咄嗟の相も、談對手とならんとする本特色を有す。

- (一) 書を二分して前半を理論的組織的研究にあて、後半を實際資料の記述に用ひたり。
- (二) 前半に於ては、歴史を過去の記録とする謬想を破りて國民心理の發現と斷じ、講演的教式を排して思索的教式を唱道せり。
- (三) 後半に於ては教授上の疑問に答へ、歴史的常識を高め、研究趣味を養成せんとして正確なる資料を蒐集したり。
- (四) 全體に於ては教授能率を高むるに必要なる注意を拂ひて排列に新工夫を加へ、挿畫を豊富にして了解に便にしたり。

——(版再忽)——

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 菊 | 判 | 洋 | 裝 | 布 | 綴 |
| 箱 | 入 | 八 | 百 | 三 | 十 |
| 一 | 頁 | | | | |
| 定 | 價 | 金 | 三 | 圓 | 八 |
| 十 | 錢 | | | | |
| 送 | 料 | 十 | 六 | 錢 | |

文部省督學官 乘杉嘉壽先生序文 農學士 成田軍平先生 共著 (忽參版)
 愛媛縣師範學校長 山路一遊先生序文 奧井平七先生 共著

小學校農業教授の實際

菊判五百頁綿布裝
 石版刷挿圖數葉入
 定價金二圓
 送料金十二錢

農村改革の根本解決は農業教授の善悪如何にありと絶叫して、没頭十年自ら犁鋤を手にし農村兒童の開發に従事せる著者が鬱勃たる野心、火の如き意氣を以て公表せる本書の大主張、大經營を見よ。これ農村學校經營の唯一津梁たり。農村退化荒廢せんとする家は勿論先覺者の必讀すべき書也。

●時事新報評 理論と實際とを巧に調和し小學農業科の教授方法を詳述せるものなるが、特に教授細目の編成、農業科と他教科との關係、並に實習教授を脱けるあたり特色を見る。
 ●大阪朝日新聞評 小學校に於ける實科の一として最近に教授時間を延長され其價值を重大された農業科の教授方案と其成績を詳述した書で、實際上の知識方法が多く記述されてある。
 ●報知新聞評 小學校農業科の教授方法を詳述し特に理論と實際との調和に苦心する處ありたれば小學農業教授法の缺陷を補ふによるしく、農村小學校は勿論、村長農業技術員は一讀して發明する處餘からざるべし。

奥井平七先生著

四六倍判二百數十頁 定價金壹圓八十錢
 洋布綴金字入美裝 送料金十二錢

小學校補習學校 農業科新教授細目

農村の生命は謂ふまでもなく農業にあり。その發展も、その繁榮も一に懸つて農事振興の上に存す。即ち其の農村の經營者たるべき、兒童を收容せる小學校の農業教授の良否如何は農村の上に重大の影響あるを思はざる可らず。然るに實際に於ける其の教科の他の教科に比して、頗る幼稚の境にあるは何ぞや、依つて來る處多々あるべきも、就中教授細目の不備なる、その主因たらざるべからず。
 著者深く之を憂ひ、研究數回年、文部省編甲、乙兩種の教科書を経こし、各地方各種の教科書を練

農業教授の羅針盤

とし、之に自己の研究せるところを加味按排して、訂正修補すること數次、以て遍く全國小學校補習學校の教授に適應せしむるを期せり。殊に學科教授細目と實習教授細目とを對照せしめ、農村の配列を季節によりて系統的に編録したる所、其の用意の周到活用自在なる、從來行はれたる教授細目の姉妹編「小學校農業教授の實際」を公にするや歡迎甚、更に本細目の出版を要望するもの頗々たり。前者の讀者は素より、實際教授に携はる諸賢の切に一讀あらん事を望む。

兩性折衝
の祕密を
窺ふ關鍵

△下等動物より人類に到る迄進化的に性慾を研究したる權威的の著述！
△凡ゆる種類の動物に涉りて性的習癖を觀察し珍奇なる行爲を紹介す！
△母權と父權の興廢消長の跡を性的に究明して其の根本的斷案を下す！

ウイルヘルム・ベルシエ原著

【版再】

性的進化論講話

洋装布綴箱入
紙數四百餘頁
四六列頭美本
定價圓四拾錢
郵税金八錢

文學士 本田親二先生 翻譯

男女問題
に鐵案を
下す名著

△一夫一婦主義と一夫多妻主義及多天一妻主義の起りし所以を説く！
△貞操の意義如何、賣淫の歴史如何、婚姻關係家庭生活の變遷如何！
△此等人道の根柢に横はる深酷なる問題も然く平明的確に説述せられたり！

渡邊千代吉・小關貞次兩先生著 【好評三版】

尋常理科教授資料集成

洋装箱入裝布綴
紙數九百頁
定價金參圓八十錢
送料金十二錢

本書の五大特色

- (一) 尋常小學校に於ける理科教授を本書一卷にて事足らしめんと計り、尋常全科の各教科書に現はれたる教材を悉く網羅したり。
- (二) 本教材の解説以外補助教材及説明を數多掲載したり。
- (三) 實驗に重きをおき、且つ簡易なる幾多の補助實驗を配したり。
- (四) 實生活に觸れしめん爲新聞雜誌に散見せる廣告理科的智識を多く採用したり。
- (五) 實地教授上趣味あらしむる爲め課末に古今の詩歌俳句を掲げたり。

東京朝日新聞
批評

内容を上中下の三篇に分ち上中二篇にて尋常小學五六年の理科につき其教材の解説を主とし、兼て教授上の諸要項を示し下篇に於ては尋常一年より全部に通じて、讀本及び地理書中の理科教材につき之を詳説したり。一々實驗に徴し多少の文學的趣味をも添加し、應用に注意し、後問を擧げて教授上の便に供し必要の場は挿圖によりて其の説明を助け、遺憾なきを期したる等益し當時の人に取っては最も座右の好參考たるべく、集成の名に背かざるものなるべし。

東京高等工業學校教授 理學士 水津嘉之一郎先生著

理論最新化學集成

上卷 五版
下卷 再版

のち成集の館文隆

凡そ世に學術として日々變化する未だ化學の如きはあらじ是れ發見と研究の相ついで發表せらるるが故にして、化學書の價值は、此最新の發見の採否如何にもつても定めらるべく、殊に本書は組織最も整然、解説最も詳密、理論と共に其の應用實驗を逸するなし。○今其の特色一二を記せば(一)本書は中學校程度教科書の記述の順序によつて其の最良唯一の參考書たらしむるに共に(二)小學校の理科の絶好參考書たらしむべく其に應用し得べき索引をかかげ(三)且小*料は六號にて組み、活字の數より言へば普通の四千頁にも相當すべし(五)精密なる圖版を挿入す。尙論記して幾十項の特色を擧げ得んか要するに記述平明にして何人にも解し易からしむるに共に小中學の參考書たりしむるは固より高等學校の無二參考書専門大家の一大備忘録たるを得べき最近匹儔なき大著也

菊判大冊一千餘頁、綿布綴
圖百數十面挿入、箱入美本
上巻定價 四圓
下巻定價 四圓五拾錢
送料 拾六錢

*中學各學校の備品たる理化學の器械の實驗法は殊に委しく説明し(四)必要にして暗記すべきもの又は記憶せざるべからざるものは五號又は五號大字を用ひ參考資料

遺傳か教育か

●ギョー一原著 稻毛詛風先生譯 (頗好評)

卅餘歳にし
て天折した
る大天才の
獅子吼を聽
け

遺傳か教育か。是れ現下教育界の最大問題也。若し一派の論者の如く遺傳を兒童教養上主要のものとするれば凡百の教育法立地に其の價値を失ひ、又他派論者の如く教育萬能を夢むとも嚴然たる遺傳の力は否み能はじ。此の岐路に立つ時具眼の士も迷ひ、有識の士も惑ふ。本書は之に解決を與へしもの、遺傳の教育的意義を闡明して遺憾なきと共に教育を社會的に研究して剩さず。原著者は歐洲思想界に於てニイチエと併稱せらる、大天才又譯者稻毛氏が吾邦思想界に占むる位置は既に定評あれば茲に云はず、新思潮に觸れんとする教育家は來つて深達の洞察に聽くべく、思索を求むる讀書家は就て精到の立論を見よ。

菊判綴紙數四百餘頁
洋裝口繪原著者肖像
定價 金壹圓六拾錢
小包送料拾二錢

隆文館の集

隆文館出版圖書目錄 (拔萃)

| | | |
|------------|---------------|------------------------------|
| 文學士 青木武助君著 | 大日本歴史集成(上中) | 定價各四圓五十錢 送料金十六錢 |
| 同 | 續大日本歴史集成(上) | 上金三圓八十錢 下金四圓八十錢 送料金十六錢 |
| 櫻井時太郎君著 | 東洋歴史集成(上) | 上金四圓五十錢 中金三圓八十錢 送料金十六錢 |
| 文學士 坂本健一君 | 西洋歴史集成(上中) | 上金四圓五十錢 中下近刊 送料各十六錢 |
| 角田政治君著 | 新大日本地理集成(上) | 上金三圓三十錢 下金四圓三十錢 送料各十六錢 |
| 同 | 續大日本地理集成(上) | 各金貳圓五十錢 送料各十六錢 |
| 同 | 外國地理集成(上) | 上金貳圓八十錢 下金參圓八十錢 送料各十六錢 |
| 水津嘉之一郎君著 | 應用最新化學集成(上) | 上金四圓五十錢 下金四圓五十錢 送料各十六錢 |
| 角田政治君 共著 | 家庭教育講話資料集成(全) | 定價金三圓五十錢 送料十錢 |
| 橋本留喜君 共著 | 社會教育講話資料集成(全) | 定價金三圓五十錢 送料十錢 |

成もの

| | | |
|----------|---------------|-------------------|
| 國語教授會論 | 尋常級方教授資料集成(全) | 定價金十二錢 送料十二錢 |
| 同 | 高等級方教授資料集成(全) | 定價金十二錢 送料十二錢 |
| 家事教授研究会編 | 小學校家政教材集成(全) | 定價金十二錢 送料十二錢 |
| 渡邊千代吉 共著 | 尋常理科教授資料集成(全) | 定價金三圓八十錢 送料十錢 |
| 小關貞治 共著 | 最體操 集成(全) | 定價金三圓八十錢 送料十錢 |
| 尼子 共著 | 新遊戯 集成(全) | 定價金四圓八十錢 送料十錢 |
| 吉原 共著 | 最遊戯 集成(全) | 定價金四圓八十錢 送料十錢 |
| 眞行寺吉太郎 | ストラス植物學(形態學) | 定價金十二錢 送料十二錢 |
| 三宅 共譯 | 植物學(形態學) | 定價金十二圓二十錢 送料十錢 |
| 草野俊助 共譯 | 植物學(形態學) | 定價金十二圓二十錢 送料十錢 |
| 同 | (隱花植物) | 定價金十二圓七十錢 送料十錢 |
| 同 | (顯花植物) | 近刊 |

ト工4F-2J

文學士坂本健一先生譯 口繪(寫真版) 肖像(電氣版)入

ギボンの
世界的な
朽の名著

羅馬盛衰史

全一冊

一編一章悉く句高き
ローマンスを織る!!

中判八百數十頁ボイント總かな付
装一純洋布綴箱入 定價(金二圓四十錢)
釘一高 雅美本 小包料十二錢

大好评

國破れて山河あり、大厦雨に朽ちて古塔月に聳ゆ、戟を把る英雄直に勇
壯の戯曲を成し、裳を纏へず妖妃直ちに艶美の詩を織りし當年の榮華の
夢何處ぞや!凡そ東西の史を織きて羅馬史の如く興味深きは絶無也。殊
に今日世界大戦亂未だ終結せず、軍國主義の是非朝野に喧傳せらるゝの
時、回頭之を思へば實に吾が新らしき面影を古き歴史の鏡に映すの感あ
りて、大勢推移の跡歴々指呼すべし。ギボンはモンテスキューと並ぶ史
壇の天才にして本書は彼が出世作也。坂本學士少時より反覆愛讀する
事幾十回なるを知らずと云へば、此の世界的名著は最適任者によりて譯
せられたりと謂ふべし。

終

